

コスミック・RIM[®]

特定化学物質無配合 超速硬化ウレタンスプレーシステム

コスミック・RIM[®]

免責事項:シーカ製品の施工および使用に関する推奨その他の情報は、当社の現時点での知識および経験に従ったものであり、通常の条件下で当社の推奨に従い適切に保管・処理・施工されることを前提としております。実際には、材料・接着面・現場の条件がそれぞれ異なるため、ここに記載されている情報、書面による推奨その他のアドバイスは、商品性や特定目的への適合性について保証するものではなく、また法的関係に基づく責任を生じさせるものではありません。ユーザーは、シーカ製品がユーザーの意図する施工方法および目的に適しているかどうかを、必ず事前に確認してください。特に、施工、施工管理及び施工に関する報告書の作成はユーザーの責任において行うものであることにご留意ください。

当社は、第三者の財産権を尊重し、製品の特性を変更する権利を有します。すべての注文は、当社の最新の販売・納品条件に従って受注します。ユーザーは常に、使用する製品のプロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版をご参照ください。プロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版は、ご請求いただければ当社がご提供いたします。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに**シーカ・ジャパン株式会社**としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのお問い合わせフォームよりお願い申し上げます。
<https://jpn.sika.com/ja/system/contact-us.html#construction>



2025年 4月版

(25.4月現在) 25.04.500 SJ

シーカ・ジャパン株式会社

東京都港区元赤坂1-2-7 赤坂Kタワー7F TEL. 03-6434-7291

BUILDING TRUST



BUILDING TRUST



特定化学物質無配合 超速硬化ウレタンスプレーシステム

コスミック・RIM

超速硬化！

超速硬化が広げるウレタン防水の可能性

CONTENTS

コスミック・RIM 工法一覧

工法分類	使用するマット	補強布有無	仕様記号
平場	通気緩衝工法	CA マット G	RG-20
			RG-30
		CA マット SB	RB-20
			RB-30
	機械的固定工法	CA マット G	RC-30
		CA マット SB 機械固定用	RB-30 機械的固定
	密着工法	-	SSE-20
			SSE-30
立上り	密着工法（各工法共用）	-	SSE-20
公共建築工事標準仕様	X-1	CA マット G	RGX-1
		CA マット SB	RBX-1
	X-2（平場）	-	LS メッシュ SX-2
	X-2（立上り）	-	LS メッシュ SVX-2
複合工法	密着工法（平場）	-	RZ-30
		-	RZ-30C
	密着工法（立上り）	-	RZ-30CF
緑化システム	密着工法	-	MU
		-	ZU
	密着工法（平場）	-	SP-EH
駐車場仕様	密着工法（立上り）	-	SP
	密着工法（スロープ）	-	SP-EH スロープ
屋根改修仕様	密着工法（スレート屋根）	-	CI-2S
	鉄部密着工法（防錆・防蝕・防熱・防水）	-	CI-1（防錆） CI-2（防水+防錆）
その他	密着工法（スタジアム・観覧席）	-	SK-20（観客席防水）
			SK-EK20（防滑）
	密着工法（一般床）	-	SSG-20
			SSG-15
	密着工法（高荷重床・平場）	-	SH-40 SH-50
	密着工法（高荷重床・立上り）	-	SH-20

INDEX

コスミック・RIM の特長	2
コスミック・RIM 製品情報	3
防水工法	6
■ 通気緩衝工法 CA マット G	7
CA マット SB	8
■ 機械的固定工法 CA マット G	9
CA マット SB 機械固定用	10
■ 密着工法	12
■ 公共建築工事標準仕様	13
■ 複合工法	15
■ 緑化システム	17
■ 駐車場仕様	21
■ 屋根改修仕様	23
■ スタジアム・観覧席	26
■ 一般床	27
■ 高荷重床	28
■ 施工条件	29
資料	36
■ 納まり図	37
■ 使用上の注意事項／メンテナンス／保証	41
■ 消防法関連	43
製品情報	46
■ ウレタン塗膜防水材	47
■ プライマー	49
■ トップコート／骨材	55
■ 通気緩衝シート／テープ	57
■ 金物／その他	60
■ シーリング材	61
■ 脱気装置／改修ドレン	62
■ 下地処理材／目地処理材	64
■ 製品一覧	67

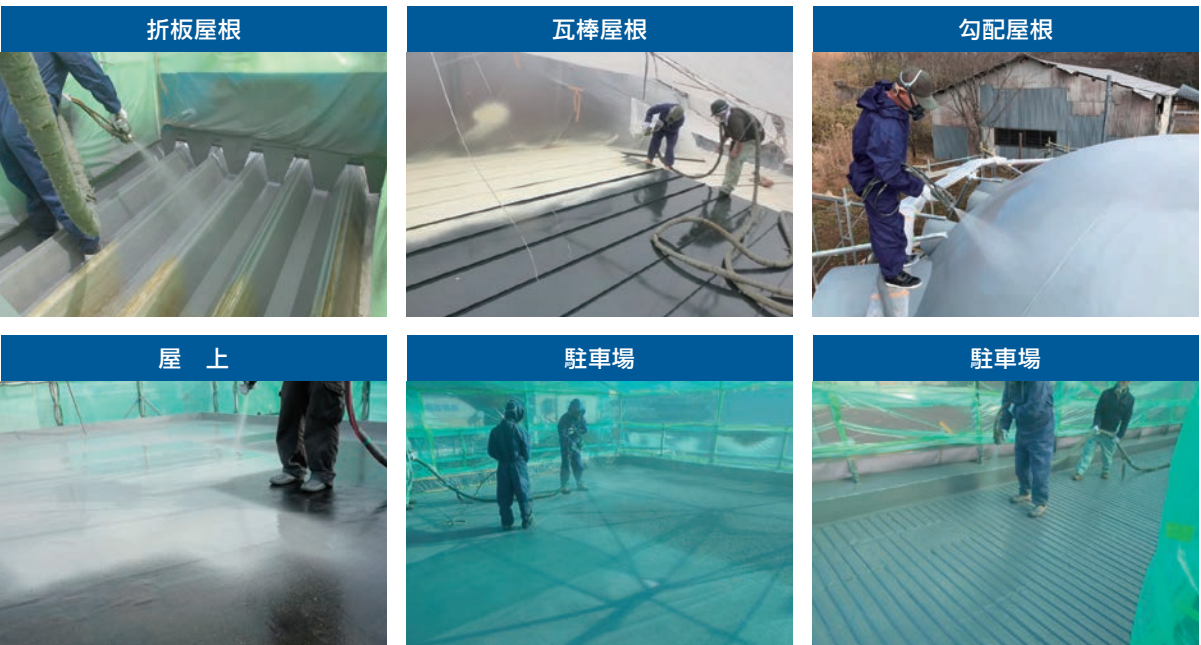
コスミック・RIM の特長

コスミック・RIM は超速硬化を可能にした超速硬化ウレタン防水材です。

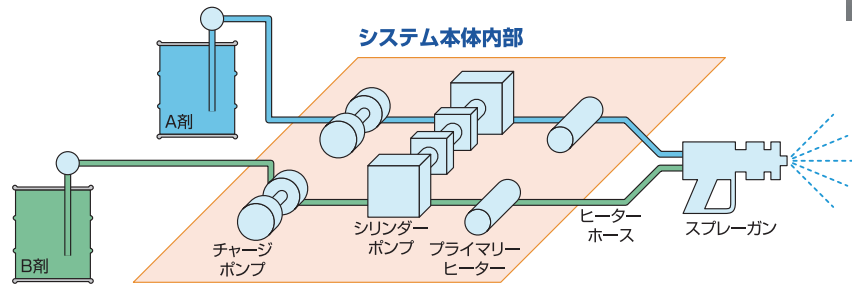
硬化が速いので、連続積層が行えます。

また養生時間が飛躍的に短いことが、工期短縮を可能にしました。施工は機械化コントロールシステムにより、材料温度、吐出量、攪拌などが管理され、高精度で高品質な防水層が得られます。

超速硬化なので垂直面もダレにくく、凸凹や波状な形状でも、十分な膜厚が確保できます。スプレー工法のため、今までのウレタン防水が困難であった部分の施工が可能となり、ウレタン防水材のもつ可能性をまた一歩進めたのが、コスミック・RIM です。



- 材料は温度管理システムで適度な温度にコントロールされているため、外気温に左右されず、硬化後の物性も安定しています。
- 材料の吐出量は常に一定なため、高精度なスプレー施工ができます。
- A 剤、B 剤はスプレーガンの先端部分で混合攪拌されるため、攪拌不良がありません。



コスミック・RIM



コスミック・RIM 製品情報

コスミック・RIMでは、様々な用途に対応する5製品を

全ての製品でホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆を取得、またトルエンやキシレンをコスミック・RIMシリーズは、これらの製品を使用用途に合わせ、最適な構成で仕様が

コスミック・RIM S100 / S200 (N)

超速硬化ウレタン

超速硬化ウレタンのスタンダードです。優れた伸び性能と高い抗張積により強靱なウレタン塗膜防水層を形成するため、一般屋上をはじめ開放廊下や金属屋根にも使用しています。



コスミック・RIM S150

超速硬化ウレタン

「コスミック・RIM S150」は「コスミック・RIM S100 / S200 (N)」に比べ、より高い耐摩耗性を備えた高耐久超速硬化ウレタンです。このことによりウッドデッキやインターロッキング、押えコンクリートの設置も可能としています。また露出駐車場防水で使用される高い耐摩耗性を備えた超速硬化ウレタンで、競技場観客席など比較的行歩頻度の高い部位での使用が最適です。



コスミック・RIMの原液性状と塗膜物性

		S100		S200 (N)		S150	
主成分		主剤 (A剤)	硬化剤 (B剤)	主剤 (A剤)	硬化剤 (B剤)	主剤 (A剤)	硬化剤 (B剤)
	外観	淡黄色透明液体	褐色透明液体	淡黄色透明液体	褐色透明液体	淡黄色透明液体	褐色透明液体
	粘度 (m.Pa.s/25℃)	550	800	1060	570	600	500
	比重 (23/23℃)	1.1	1.0	1.1	1.0	1.1	1.0
	配合比	100:100 (容積比)		100:100 (容積比)		100:100 (容積比)	
塗膜物性	タックフリータイム (秒)	8~18		15~25		3~14	
	キュアタイム (分)	2~4		3~5		2~4	
	硬化物比重	1.0		1.0		1.0	
	硬さ (shoreA)	89A		79A		90A	
	引張強さ (N/mm ²)	14		10		15	
	伸び (%)	400		510		320	
	引裂強さ (N/mm)	62		58		68	
	抗張積 (N/mm ²)	1100		1200		960	
	テーパー摩耗指数H-22 (mg/1,000回転)	190		300		157	
JIS A 6021「屋根用塗膜防水」		高強度形		高伸長形・高強度形		高強度形	

ラインナップしています。

含まず、さらに特定化学物質も無配合の「世界標準の安全」を備えた製品です。組まれています。

コスミック・RIM S500

超速硬化ウレタン

「コスミック・RIM S500」は「コスミック・RIM S150」に比べ、より高い耐摩耗性を備えた超速硬化ウレタンです。このことによりウッドデッキやインターロッキング、押えコンクリートの設置も可能としています。



コスミック・RIM A-50R

超速硬化ポリウレタ

特徴

- 高い遮塩性**
水密性試験に耐える防水性能と遮塩水試験においても塩分を透過しない遮塩水性を有しています。
- 抜群の物性**
早期に物性を発現する特性を有しています。
- フレキシブルな対応力**
立面・天井面および複雑な下地形状に対して防水・保護膜を形成することが可能です。
- 高い対応力**
塗膜は長期の耐候性・耐薬品性・耐熱性・耐低温性および耐水試験に耐久性を保有しています。
- 環境対応製品**
塗膜の溶出試験によって「土壌の汚染に係わる環境基準」に定める基準以下です。



エバーコート Zero-1H

1 成分形ウレタン

駐車場など、改修時における1層目の下地不陸処理材等でも1成分形ウレタン塗膜防水材「エバーコート Zero-1H」は使用可能です。



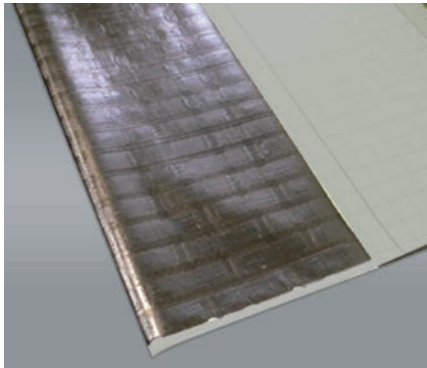
防水工法

通気緩衝工法
機械的固定工法
機械的固定断熱工法
一般密着防水工法平場・立上り共用
公共建築工事標準仕様書
公共建築工事標準仕様書対応工法
複合工法
緑化システム
駐車場仕様
注意事項
スレート屋根改修仕様
鉄部防錆・防蝕・防熱・防水仕様
スタジアム・観覧席防水仕様
一般床仕様
高荷重床仕様
施工条件

通気緩衝工法 (RG 工法 / RB 工法)

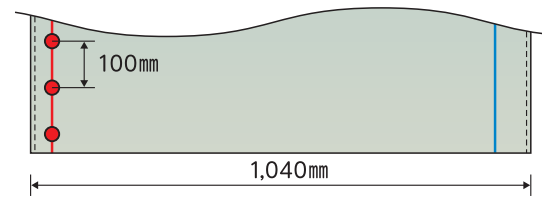
CAマットG【自着層付改質アスファルトシート】

CAマットGは、シート構成材に改質アスファルトを採用し、単独でも十分な防水性能を持たせました。ウレタン塗膜防水材との組み合わせにより、複合防水工法としてウレタン塗膜防水工法の性能を飛躍的に向上させることが可能です。

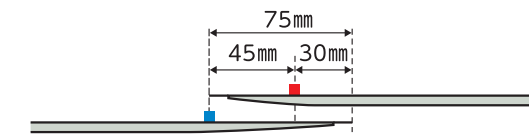


表面・グレー / 裏面・黒

シート表面図

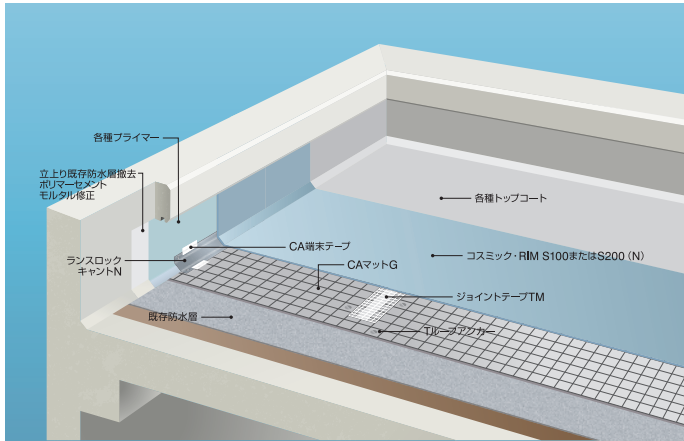


シートジョイント断面図



* 長手ジョイント部は青のライン上に赤のライン側の末端を重ねて貼ることで、段差が目立たない仕上りとなります。

RG 工法



RG-20 工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	※1
2	CA マットG ^{※2} ジョイントテープTM CA 端末テープ	1.03m 1.2m ^{※3} 0.3m ^{※3}
3	コスミック・RIM S100またはS200 (N)	2.0kg
4	各種トップコート	0.2kg ^{※4}

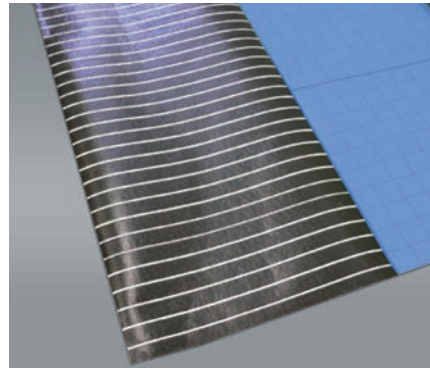
RG-30 工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	※1
2	CA マットG ^{※2} ジョイントテープTM CA 端末テープ	1.03m 1.2m ^{※3} 0.3m ^{※3}
3	コスミック・RIM S100またはS200 (N)	3.0kg
4	各種トップコート	0.2kg ^{※4}

※1 下地の種類によりプライマーの種類と塗布量が異なります。詳しくはP.47の適合表を参照してください。
※2 各種通気緩衝シートへの変更が可能です (P.53 ~ 参照)。詳しくはお問い合わせください。
※3 現場の状況によって異なります。 ※4 オートトップ・ワンとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。
・ジョイントテープTMはその他のテープに変更することも可能です。
・既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 ・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

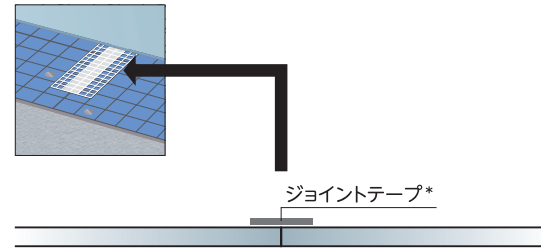
CAマットSB【自着層付粘着ブチルゴムシート】

ポリエステル不織布と粘着ブチルから構成される通気緩衝工法シートです。表層の特殊フィルムは十分な撥水効果があり、施工中の降雨の影響を受けにくくなります。不織布の柔軟性と粘着ブチルの接着力により各種下地になじみやすく、下地追従性、通気性に優れたウレタン塗膜防水工法を形成します。



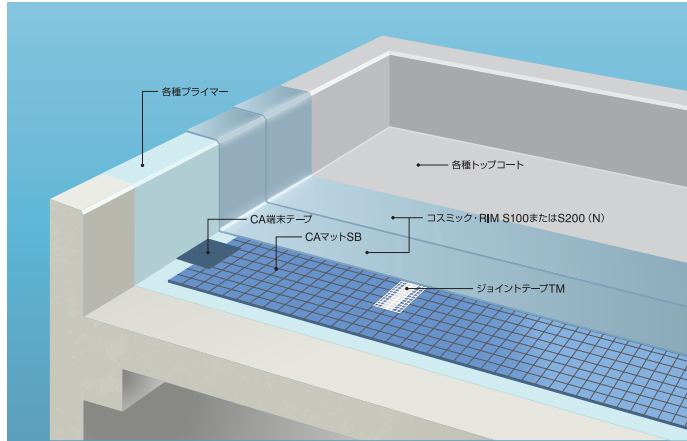
表面・ブルー / 裏面・ストライプ (白黒)

シートジョイント断面図



* シートのジョイントは、長手方向、短手方向ともに突き付けとなります。
* ジョイントテープは、ジョイントテープTMを推奨します。

RB 工法



RB-20 工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	※1
2	CA マットSB ^{※2} ジョイントテープTM CA 端末テープ	1.0m 1.2m ^{※3} 0.3m ^{※3}
3	コスミック・RIM S100またはS200 (N)	2.0kg
4	各種トップコート	0.2kg ^{※4}

RB-30 工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	※1
2	CA マットSB ^{※2} ジョイントテープTM CA 端末テープ	1.0m 1.2m ^{※3} 0.3m ^{※3}
3	コスミック・RIM S100またはS200 (N)	3.0kg
4	各種トップコート	0.2kg ^{※4}

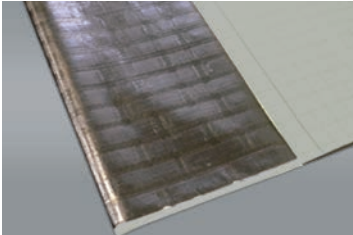
※1 下地の種類によりプライマーの種類と塗布量が異なります。詳しくはP.47の適合表を参照してください。
※2 各種通気緩衝シートへの変更が可能です (P.53 ~ 参照)。詳しくはお問い合わせください。
※3 現場の状況によって異なります。 ※4 オートトップ・ワンとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。
・ジョイントテープTMはその他のテープに変更することも可能です。
・既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 ・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

機械的固定工法(RC工法／RB機械的固定工法)

CAマットG【自着層付改質アスファルトシート】

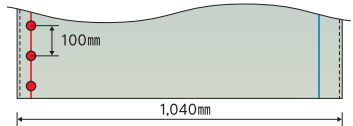
既存下地にCA マットGを被せてアンカーで固定する工法です。既存下地材の撤去を低減し、新たに防水層を形成します。下地撤去が最小限に抑えられる為、工期短縮やコストダウンが図れ、また、施工中の漏水事故や産業廃棄物処理が抑制できます。

写真

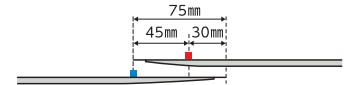


表面・グレー／裏面・黒

シート表面図

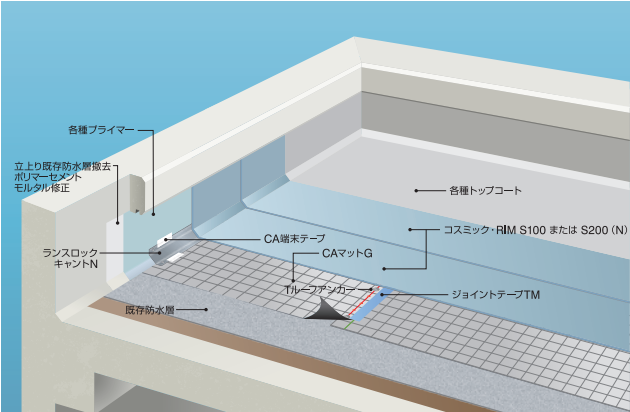


シートジョイント断面図



* 長手ジョイント部は青のライン上に赤のライン側の端末を重ねて貼ることで、段差が目立たない仕上りとなります。

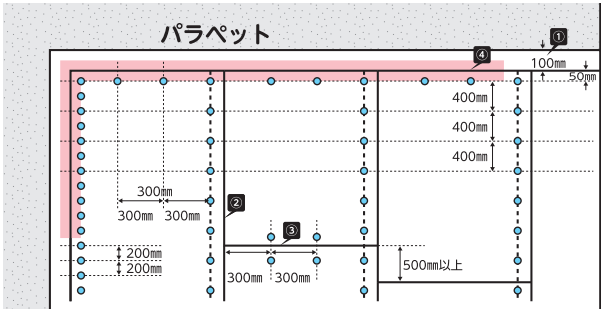
RC工法



RC-30工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	CA マットG ジョイントテープTM CA 端末テープ	1.03m 1.2m※1 0.3m※1
2	《ジョイント部・端部共》 Tルーフアンカー + CAパッチテープ (オプション)	2.5本※2
3	コスミック・RIM S100またはS200 (N)	3.0kg
4	各種トップコート	0.2kg※3

CAマットGおよびTルーフアンカー割付図 (ランスロックキャントNを使用しない場合)



- ①ランスロックキャントNを使用する場合、CA マットGは入隅に突き付けて仮貼ります。ランスロックキャントNを使用しない場合、CA マットGは入隅から、50mm以上離して仮貼ります。
- ②CA マットGの長手・短手ジョイントには『ジョイントテープTM』で補強貼りをを行います。
- ③短手のジョイントは隣接するシートと500mm以上ずらします。
- ④CA マットGの端末は『CA 端末テープ』(ブチルゴムテープ、色：黒、幅100mm)で補強貼りをを行います。
※必ず、CA マットGのジョイント、端末のテープ補強を行ってから、アンカーの打込みを行ってください。端部のアンカーの代わりにTルーフプレートA型やランスロックキャントNを使用することも可能です。
- ⑤アンカーは、CA マットGの赤ラインを目安に400mmピッチにて打込みます。(100mmピッチで赤印が付いています。)端末部、周辺部は、耐風圧の為、上記のようにピッチを狭くしてアンカーを打込みます。

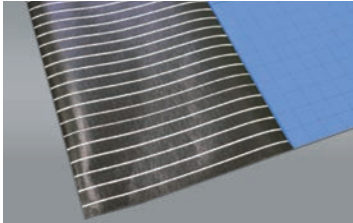
RC-30工法(ランスロックキャントNを使用する場合)

工程	使用材料	使用量/㎡
1	CA マットG ジョイントテープTM	1.03m 1.2m※1
2	《ジョイント部》 アンカー + CAパッチテープ (オプション) 《端部》 ランスロックキャントN+Tルーフアンカー +CA 端末テープ	2.5本※2
3	コスミック・RIM S100またはS200 (N)	3.0kg
4	各種トップコート	0.2kg※3

CAマットSB機械固定用【自着層付粘着ブチルゴムシート】

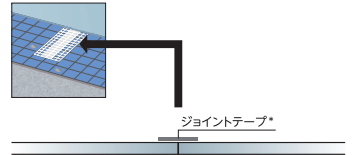
既存下地上にCA マットSB 機械固定用を被せてアンカーで固定する工法です。既存下地を撤去することなく、新たに防水層を形成します。下地撤去が最小限に抑えられる為、工期短縮やコストダウンが図れます。また、施工中の漏水事故や産業廃棄物処理費用が抑制できます。

写真



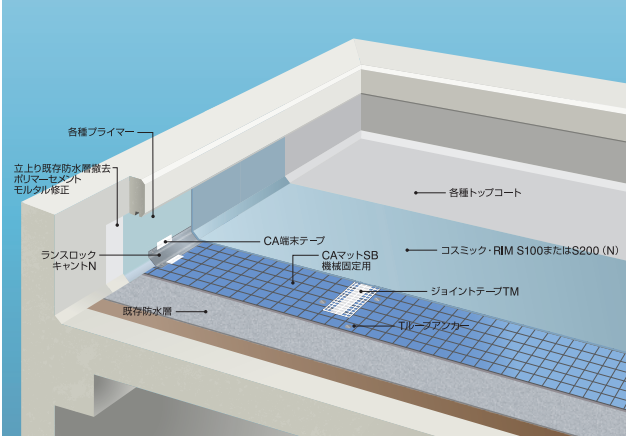
表面・ブルー／裏面・ストライプ(白黒)

ジョイント断面図



*シートのジョイントは、長手方向、短手方向ともに突き付けとなります。
*ジョイントテープは、ジョイントテープTMを推奨します。

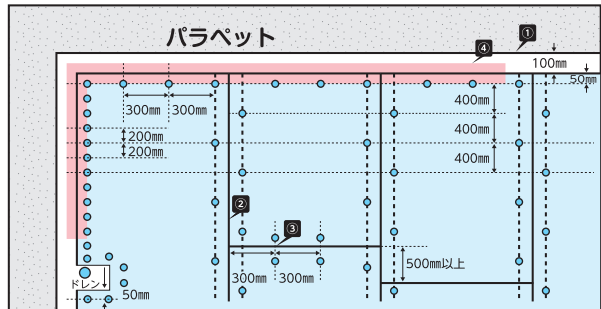
RB 機械的固定工法



RB-30 機械的固定工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	CA マットSB 機械固定用 ジョイントテープTM CA 端末テープ	1.0m 1.2m※1 0.3m※1
2	《ジョイント部・端部共》 Tルーフアンカー + CAパッチテープ (オプション)	2.5本※2
3	コスミック・RIM S100またはS200 (N)	3.0kg
4	各種トップコート	0.2kg※3

CAマットSB機械固定用およびTルーフアンカー割付図 (ランスロックキャントNを使用しない場合)



- ①ランスロックキャントNを使用する場合、CA マットSBは入隅に突き付けて仮貼ります。ランスロックキャントNを使用しない場合、CA マットSBは入隅から、50mm以上離して仮貼ります。
- ②CA マットSBの長手・短手ジョイントには『ジョイントテープTM』で補強貼りをを行います。
- ③短手のジョイントは隣接するシートと500mm以上ずらします。
- ④CA マットSBの端末は『CA 端末テープ』(ブチルゴムテープ、色：黒、幅100mm)で補強貼りをを行います。
※必ず、CA マットSBのジョイント、端末のテープ補強を行ってから、アンカーの打込みを行ってください。端部のアンカーの代わりにTルーフプレートA型やランスロックキャントNを使用することも可能です。
- ⑤アンカーは、CA マットSBのラインを目安に400mmピッチにて打込みます。端末部、周辺部は、耐風圧・風荷重を考慮し、上記のようにピッチを狭くしてアンカーを打込みます。

RB-30 機械的固定工法(ランスロックキャントNを使用する場合)

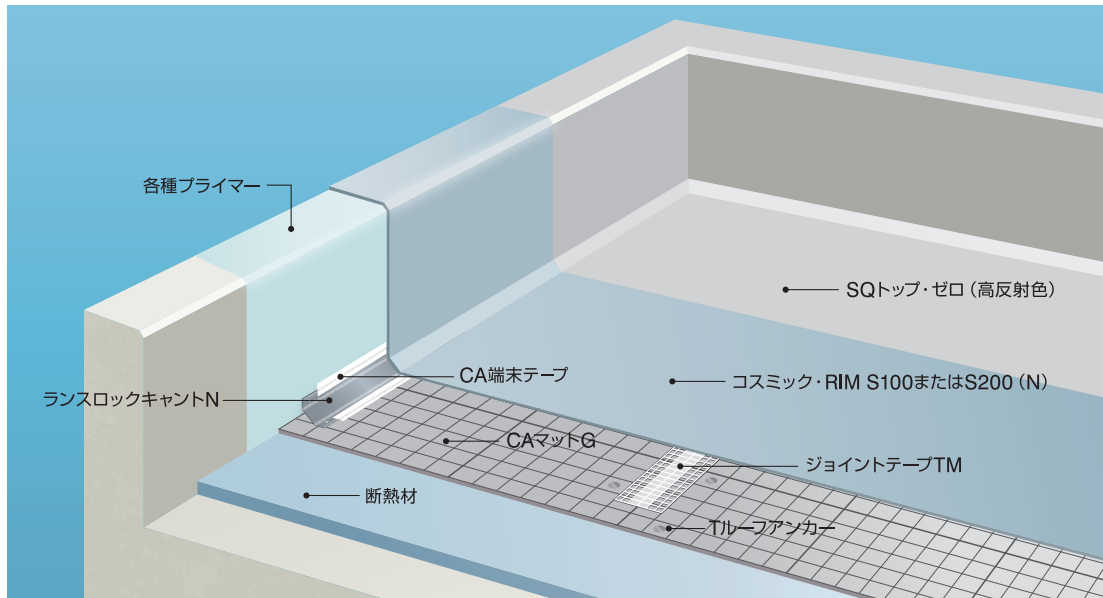
工程	使用材料	使用量/㎡
1	CA マットSB 機械固定用 ジョイントテープTM	1.0m 1.2m※1
2	《ジョイント部》 アンカー + CAパッチテープ (オプション) 《端部》 ランスロックキャントN+Tルーフアンカー +CA 端末テープ	2.5本※2
3	コスミック・RIM S100またはS200 (N)	3.0kg
4	各種トップコート	0.2kg※3

※1 現場の状況によって異なります。 ※2 端部は別途積算します。 ※3 オートトップ・ワンとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。
・ジョイントテープTMはその他のテープに変更することも可能です。 ・既存防水層が露出外断熱工法の場合、SQトップ・ゼロ(高反射色)を使用してください。
・既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 ・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

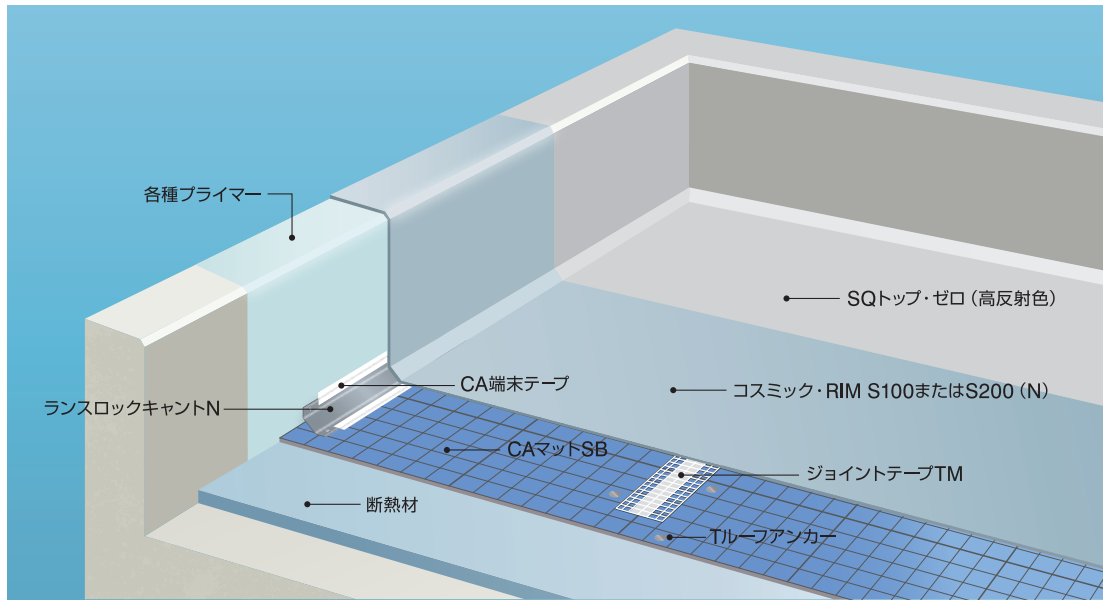
※1 現場の状況によって異なります。 ※2 端部は別途積算します。 ※3 オートトップ・ワンとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。
・ジョイントテープTMはその他のテープに変更することも可能です。 ・既存防水層が露出外断熱工法の場合、SQトップ・ゼロ(高反射色)を使用してください。
・既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 ・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

機械的固定断熱工法 (RC断熱工法／RB機械的固定断熱工法)

RC断熱工法



RB機械的固定断熱工法



RC-30断熱工法

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	断熱材	—
2	CAマットG	1.0m
	ジョイントテープTM	1.2m※1
	CA端末テープ	0.3m※1
3	《ジョイント部・端部とも》	2.5本※2
	Tルーフアンカー+Tルーフスリーブ	
	CAパッチテープ（オプション）	
4	コスミック・RIM S100またはS200（N）	3.0kg
5	SQトップ・ゼロ（高反射色）	0.2kg※3

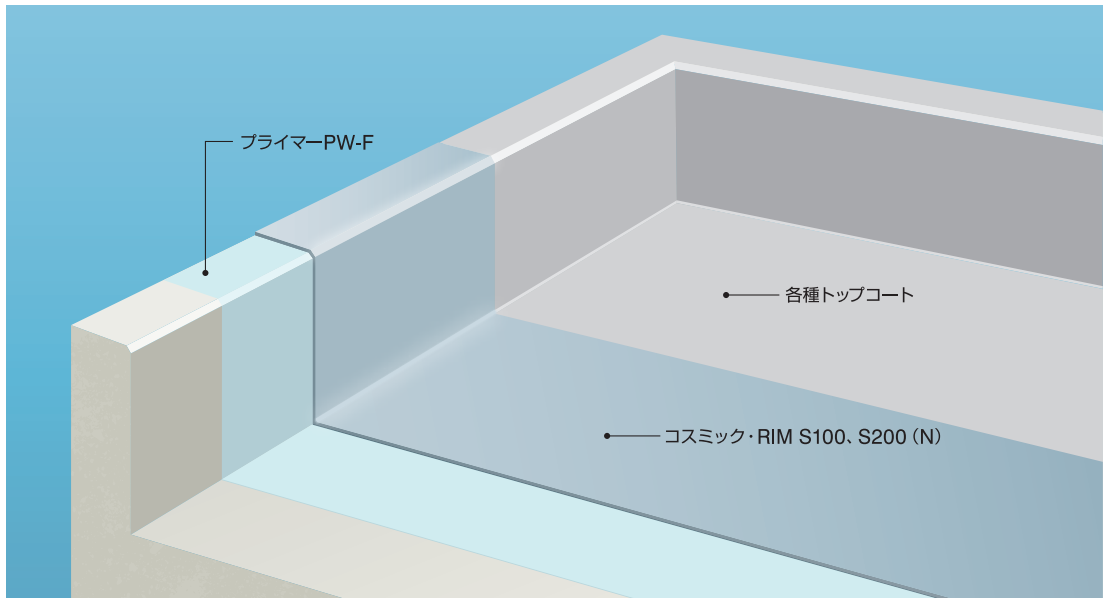
RB-30機械固定断熱工法

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	断熱材	—
2	CAマットSB機械固定用	1.0m
	ジョイントテープTM	1.2m※1
	CA端末テープ	0.3m※1
3	《ジョイント部・端部とも》	2.5本※2
	Tルーフアンカー+Tルーフスリーブ	
	CAパッチテープ（オプション）	
4	コスミック・RIM S100またはS200（N）	3.0kg
5	SQトップ・ゼロ（高反射色）	0.2kg※3

※1 現場の状況によって異なります。 ※2 端部は別途積算します。 ※3 オートトップ・ワンとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。
• 既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 • 仕様については予告なく変更することがあります。 • 記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

般密着防水工法平場・各工法共用立上り SSE工法

SSE工法



SSE-20工法

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	※1
2	コスミック・RIM S100またはS200（N）	2.0kg
3	各種トップコート	0.2kg※2

SSE-30工法

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	※1
2	コスミック・RIM S100またはS200（N）	3.0kg
3	各種トップコート	0.2kg※2

SSE工法(各工法共用立上り工法)

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	※1
2	コスミック・RIM S100またはS200（N）	2.0kg
3	各種トップコート	0.2kg※2

※1 下地の種類によりプライマーの種類と塗布量が異なります。詳しくはP.47の適合表を参照してください。 ※2 オートトップ・ワンとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。
• 既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 • 仕様については予告なく変更することがあります。 • 記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

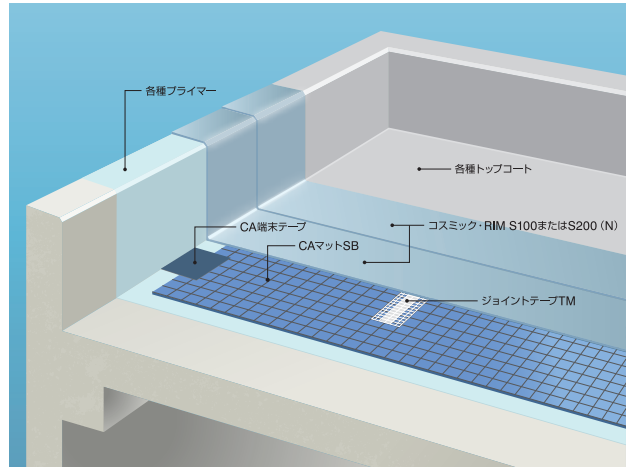
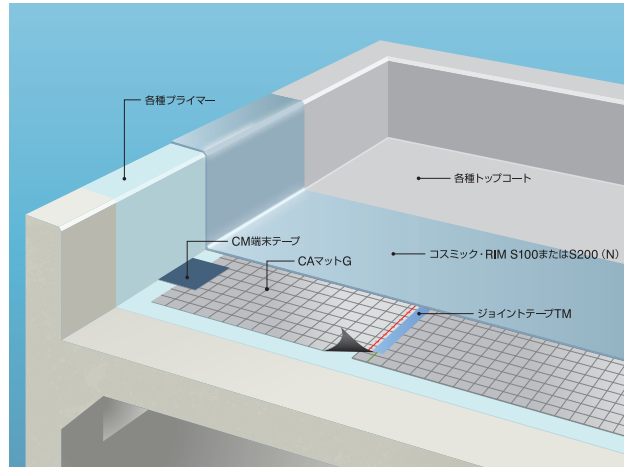
公共建築改修工事標準仕様書(令和7年版)

種別	X-1H(絶縁工法)		X-2H(密着工法)	
工程	材料・工法	使用量 (kg/㎡)	材料・工法	使用量 (kg/㎡)
1	接着剤塗り 通気緩衝シート張り ^{注)1}	0.3	プライマー塗り	— ^{注)7}
2	ウレタンゴム系高強度形 塗膜防水材吹付 ^{注)5}	3.0 ^{注)3}	ウレタンゴム系高強度形 塗膜防水材吹付 ^{注)5}	3.0 ^{注)3} (2.0) ^{注)4}
3	仕上塗料塗り ^{注)6}	—	仕上塗料塗り ^{注)6}	—

注) 1. 接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。
2. L4X 工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程 1 を省略する。
3. 表中のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が 1.0 である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
4. 立上り部は全て、種別 X-2H とし、工程 2 のウレタンゴム系塗膜防水材の塗布量を () 内とする。
5. 吹付け作業が困難な部位の工法は、主材料の製造所の仕様による。
6. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は主材料の製造所の仕様による。
7. 使用量は主材料の製造所の仕様による。

公共建築改修工事標準仕様対応工法 (RGX工法／RBX工法／SX工法)

コスミック・RIM スプレーシステム RGX-1 工法、RBX-1 工法は『公共建築改修工事標準仕様書』(令和7年版)に適合した防水工法です。(ウレタン塗膜防水)
JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系



【公共建築改修工事標準仕様書X-1H対応(平場)】

RGX-1工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	※1
2	CA マットG	1.03m
	ジョイントテープTM	1.2m※2
	CA 端末テープ	0.3m※2
3	コスミック・RIM S100 または S200 (N)	3.0kg
4	各種トップコート	0.2kg※3

RBX-1工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	※1
2	CA マットSB	1.0m
	ジョイントテープTM	1.2m※2
	CA 端末テープ	0.3m※2
3	コスミック・RIM S100 または S200 (N)	3.0kg
4	各種トップコート	0.2kg※3

【公共建築改修工事標準仕様書X-2H対応(平場・立上り)】

平場SX-2工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	※1
2	コスミック・RIM S100 または S200 (N)	3.0kg
3	各種トップコート	0.2kg※2

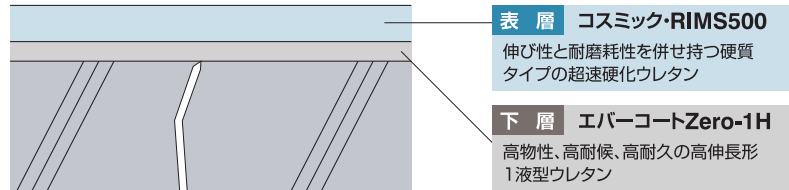
立上りSVX-2工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	※1
2	コスミック・RIM S100 または S200 (N)	2.0kg
3	各種トップコート	0.2kg※2

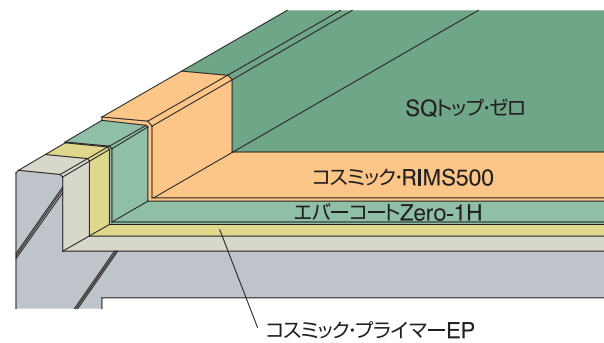
※1 下地の種類によりプライマーの種類と塗布量が異なります。詳しくはP47の適合表を参照してください。 ※2 現場の状況によって異なります。
※3 オートトップ・ワンとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。
•ジョイントテープTMはその他のテープに変更することも可能です。
•既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 •仕様については予告なく変更することがあります。 •記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

ウレタン複合密着工法

硬質タイプの「超速硬化ウレタン」を用い、耐摩耗性に優れた歩行可能な防水工法です。
露出だけではなく、保護層やウッドデッキ、さらにインターロッキングの設置も可能です。



露出密着防水工法 RZ-30 工法



仕 様		
工程	使用材料	使用量 (/㎡)
1	コスミック・プライマー EP	0.15kg～
2	エバーコート Zero-1H	1.3kg
3	コスミック・RIM S500	2.0kg
4	SQ トップ・ゼロ	0.2kg

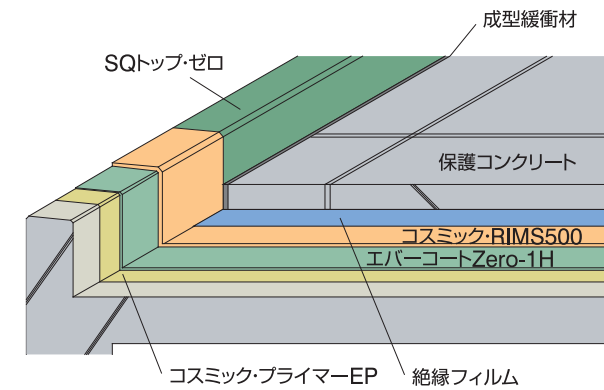
共通立上り仕様 RZ-30L 工法

仕 様		
工程	使用材料	使用量 (/㎡)
1	コスミック・プライマー EP	0.15kg～
2	エバーコート Zero-1H 立上り用	0.7kg
3	コスミック・RIM S500	2.0kg
4	SQ トップ・ゼロ	0.2kg

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

保護コンクリート仕上げ密着防水工法

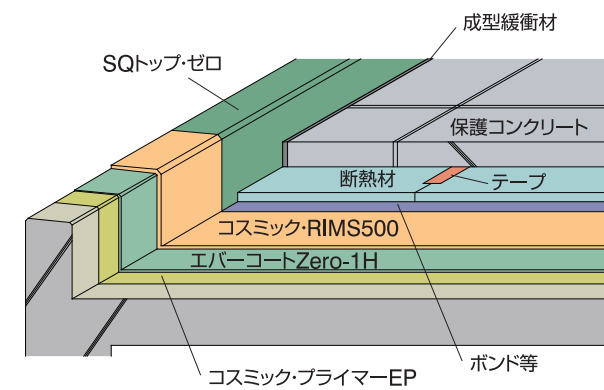
RZ-30C 工法(押え工法)



仕 様		
工程	使用材料	使用量 (/㎡)
1	コスミック・プライマー EP	0.15kg～
2	エバーコート Zero-1H	1.3kg
3	コスミック・RIM S500	2.0kg
4	絶縁フィルム保護コンクリート	別途工事

保護コンクリート仕上げ断熱密着防水工法

RZ-30CF 工法(外断熱押え工法)



仕 様		
工程	使用材料	使用量 (/㎡)
1	コスミック・プライマー EP	0.15kg～
2	エバーコート Zero-1H	1.3kg
3	コスミック・RIM S500	2.0kg
4	ボンド等	
5	ポリスチレンフォーム、テープ※1	
6	保護コンクリート	別途工事

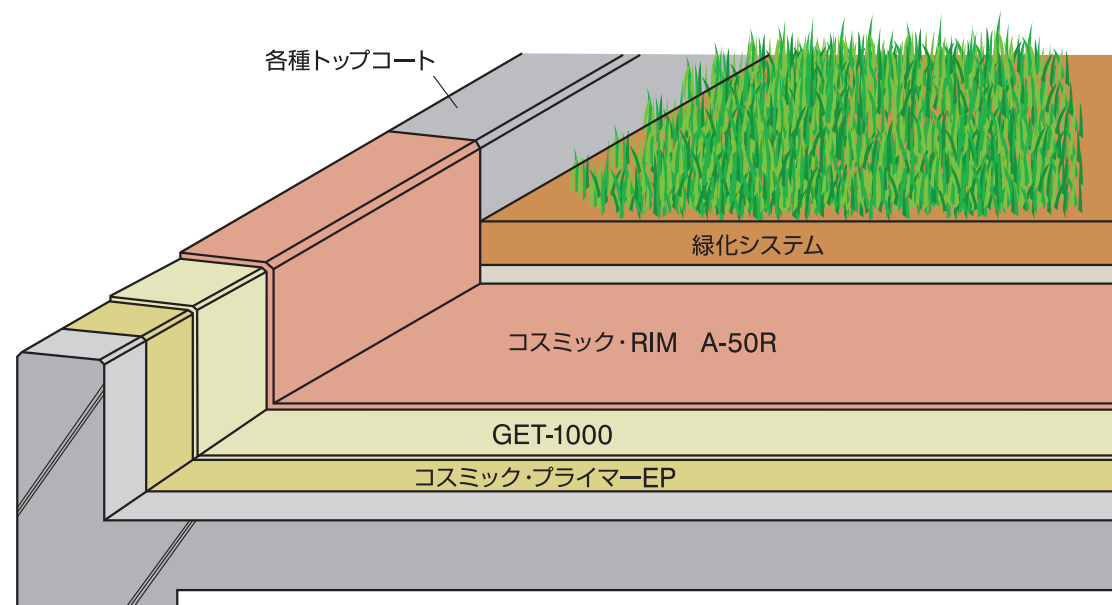
※1 断熱材の形状によって使用枚数が異なります。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

緑化システム (MU工法／ZU工法)

コスミック MU 工法 〈圧縮空気混入低比重超速硬化ウレタン＋超速硬化高機能ポリウレタ樹脂〉

柔軟性に優れた圧縮空気混入低比重超速硬化ウレタン（GET-1000）と超速硬化高機能ポリウレタ樹脂（コスミック・RIM A-50R）を組み合わせたハイブリッド防水システム。専用自動化マシンと超速硬化樹脂の特徴をいかし、大規模現場での工期短縮化に威力を発揮します。また、様々な既存防水層の改修工法としても最適です。各種の土壌や保水、排水パネルや断熱材との組み合わせなど、幅広く採用できるタイプです。



MU 工法

	工程	使用材料	使用量／㎡
Flex	1	コスミック・プライマー EP	0.15kg～
	2	GET-1000	1.5kg
Strong	3	コスミック・RIM A-50R	2.0kg

※植栽部以外の防水層の露出部分はトップコート仕上げとなります。
※上記使用量は、下地の種類により変更します。



新築 防水施工

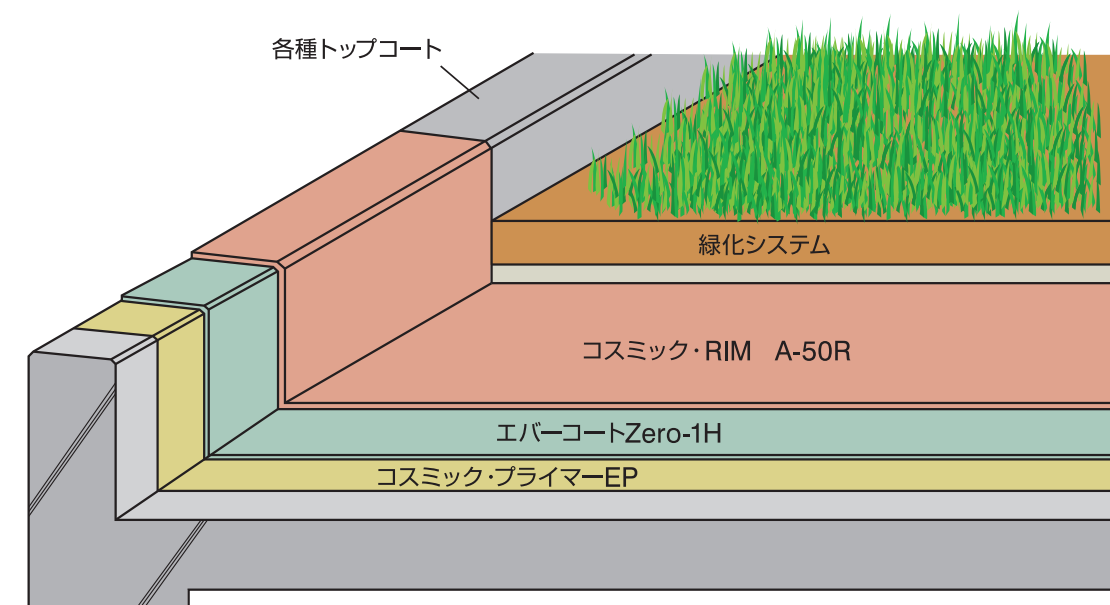


新築 植栽完了

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

コスミック ZU 工法 〈1成分形ポリウレタン樹脂＋超速硬化高機能ポリウレタ樹脂〉

性能に優れた1成分形ポリウレタン樹脂（エバーコート Zero-1H）と超速硬化高機能ポリウレタ樹脂（コスミック・RIM A-50R）を組み合わせたハイブリッド防水システム。使いやすい1成分形樹脂と超速硬化樹脂の組み合わせで、効率的な工事が可能です。各種の土壌や保水、排水パネルや断熱材との組み合わせなど、幅広く採用できるタイプです。



ZU 工法

●平場

	工程	使用材料	使用量／㎡
Flex	1	コスミック・プライマー EP	0.15kg～
	2	エバーコート Zero-1H	1.3kg
Strong	3	コスミック・RIM A-50R	2.0kg

●立上り

	工程	使用材料	使用量／㎡
Flex	1	コスミック・プライマー EP	0.15kg～
	2	エバーコート Zero-1H 立上り用	0.7kg
Strong	3	コスミック・RIM A-50R	2.0kg

●平場・立上りとも、植栽部以外の防水層の露出部分はトップコート仕上げとなります。



①防水層施工(ウレタン層)



②防水層施工(ウレア層)



③防水層完成



④植栽完成

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

緑化システム (MU工法／ZU工法)

優れた性能はデータで実証されています

耐根性データ

- 試験内容… 自社試験法
- 試験条件… 使用する部材で自然土壌プランターを作成し、小熊笹を植え付け供試体とします。植物は根の強さ・成長速度から小熊笹を選定します。
- 試験概要… 植え付け日（2001年9月）に対し、約10年経過後（2011年4月）に次の①～③の項目について確認を行った。
 - ①地下茎の生育状況に異常はないか。
 - ②地下茎が各種試験体を貫通していたか。
 - ③物性変化はどの程度起こるか。

●試験結果

部材の名称	部材概要	厚み	生育状況	貫通の有無	物性変化
コスミック・RIM A-50R	ポリウレア樹脂	2.0mm	異常なし	貫通なし	変化なし



耐亀裂性データ

- 試験内容… 都市基盤整備公団KMK法に準拠。コンクリート建造物に発生するクラックに対し、性質の異なる材料を複合させることにより、どの程度追従性を有するかを確認するための試験です。
- 試験条件… 下地板：スレート（8mm） 供試体200×50mm 引張速度5mm/min
- 考察… 通常鉄筋コンクリートに10mm以上のクラックが発生することは考えにくく、十分な下地亀裂追従性を有しているといえます。

●試験結果

	コスミック MU (仕様1)	コスミック ZU (仕様2)
亀裂追従幅 (mm)	10 以上	10 以上

耐久性データ

防水層の劣化要因としては熱劣化・紫外線劣化・機械的劣化が考えられます。紫外線劣化は植栽工法の場合、土中は紫外線の影響をほとんど受けません。熱劣化の植栽に使用する土壌は断熱性能を有しているため、土壌下に存在する防水層は通年で大きな温度変化の影響を受けません。

- 試験方法… 繰り返し疲労試験（JASS8 準拠）
- 試験条件… 下 地 板：スレート板（8mm）
 - 挙 動 幅：① 0.5 ↔ 1.0 ② 1.0 ↔ 2.0
 - 温 度：-10・20・60℃
 - 挙 動 速 度：各周期 10 分で 500 回
- 考 察… 防水層において下地に発生するクラックの挙動にしっかり追従しており、防水層の耐久性能は高レベルにあると考えられます。

●試験結果

工 法 名		一般的なウレタン防水材			コスミック MU (仕様1)			コスミック ZU (仕様2)		
ステップ		1	2	3	1	2	3	1	2	3
温 度 (℃)		20	60	-10	20	60	-10	20	60	-10
ムーブメント (mm)	0.5 ↔ 1.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1.0 ↔ 2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○

耐菌性・耐薬データ

ポリウレアは従来のポリウレタン樹脂と比較して反応性が高く、高物性であるため、FRP 同様に下水処理場に使用されています。

微生物が環境に順応して防水層を分解する酵素を生成する可能性はありますが、現在までの研究では分子量が巨大で、主鎖・側鎖が邪魔して酵素が反応部位に影響を非常に起こしにくいことがわかっています。

薬 品 名	コスミック・RIM A-50R
1% 硝酸 aq	○
5% 塩酸 aq	○
30% 硫酸 aq	○
1% クロム酸 aq	○
48% 水酸化ナトリウム aq	○
50% 水酸化カリウム aq	○
20% クエン酸 aq	○
20% 酒石酸 aq	○
30% 磷酸 aq	○
灯 油	○
軽 油	○
重 油	○

植栽設計の留意点

- ①植栽設計にあたっては、荷重・高さ等、法規や基準に従い、風圧や地震その他の振動及び衝撃に対して構造体力上安全を確保するよう留意してください。
- ②改修工事においては、①の他、既存防水層の状態を必ず確認してください。
- ③採用される植栽システム（緑化システム）の内容と工事方法については事前にお知らせ頂くか、ご相談ください。
- ④ドレン廻りは必ず点検可能なドレンカバーを設置してください。
- ⑤安全を考慮し、一屋根には 2 ヶ所以上のドレンを取り付けてください。また、オーバーフロー管の設置も有効です。

植栽工事の留意点

- ①防水層の上では火気を使用しないでください。また、溶剤、不凍液などをこぼさないでください。
- ②植栽工事においては、防水層を傷つけないよう保護シートを用いる等充分配慮ください。
- ③防水工事完了後、設備工事等で防水層を貫通させる、または傷つける懸念がある時などには、施工業者にご相談ください。

駐車場仕様（SP-EH 工法／SP-EH スロープ工法）

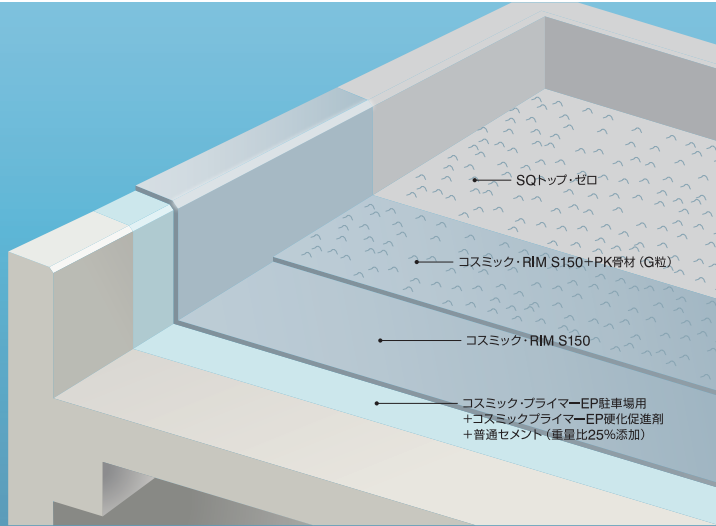
近年増加する屋上駐車場の平場部防水工事に対応した長期間の防滑性を維持する画期的な工法です。超速硬化ウレタン吹付システムで防水層を形成し、その表層に超速硬化ウレタンと骨材を同時に吹付ける、一体成型の粗面仕上げ工法です。

防水塗膜は単一材料（コスミック・RIM S150）により構成されていますので、層間剥離の心配がありません。

防水性を重視（塗布量 3.0kg）した、工期短縮型の駐車場防水工法です。

通行量の多い通路の防水層保護の為、トップコート及び仕上げ骨材の摩滅の激しい箇所は、早期に補修を有償で実施して下さい。

SP-EH 工法



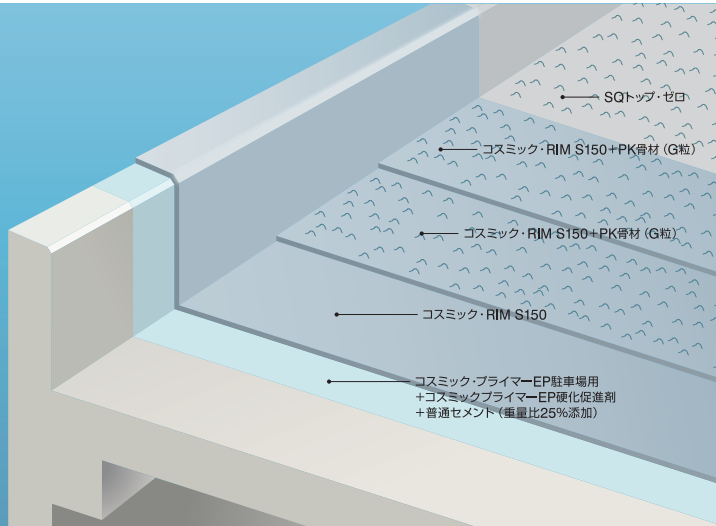
SP-EH 工法(平場駐車場部・走行部)

工程	使用材料	使用量/㎡
1	コスミック・プライマー EP 駐車場用 +コスミックプライマー EP 硬化促進剤 +普通セメント（重量比25%添加）	0.15kg～
2	コスミック・RIM S150	2.0kg
3	コスミック・RIM S150 + PK骨材（G粒）	1.0kg + 0.4kg
4	SQ トップ・ゼロ	0.2kg

SP 立上り工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	コスミック・プライマー EP 駐車場用 +コスミックプライマー EP 硬化促進剤 +普通セメント（重量比25%添加）	0.15kg～
2	コスミック・RIM S150	2.0kg
3	SQ トップ・ゼロ	0.2kg

SP-EH スロープ工法



SP-EH スロープ工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	コスミック・プライマー EP 駐車場用 +コスミックプライマー EP 硬化促進剤 +普通セメント（重量比25%添加）	0.15kg～
2	コスミック・RIM S150	3.0kg
3	コスミック・RIM S150 + PK骨材	1.0kg + 0.4kg
4	コスミック・RIM S150 + PK骨材	1.0kg + 0.4kg
5	SQ トップ・ゼロ	0.2kg

注意事項

＜ 施工前の下地の状態 ＞

- ①下地の乾燥は十分に行い、含水率を落とすことが望ましい。
- ②レイトンスやエフロッセンスは床研磨機・床研削機（ダイヤカッター）やワイヤーブラシ、サンダー掛けにて除去を行い、完全に取り除いておく。（別途工事）レイトンスを除去した場合や不陸はウレタンにて表面を平滑に仕上げる。（別途工事）
- ③クラックは、メッシュを用いた増し塗り処理をする。（必要に応じてリカット処理をする）（別途工事）
- ④欠損部は専用樹脂にて処理する。（別途工事）
- ⑤出隅部の面取りを確認し、不十分な場合は、（出隅部は）サンダー掛けを行う。（別途工事）
- ⑥凹部、突起部は平滑にしておく。（別途工事） ※上記下地処理は、現場により変更することがあります。

＜ 使用上の注意 ＞

- ①駐車場防水層の表面が雨、水等で濡れていると滑りやすいので注意してください。
- ②駐車場防水層の上では火気を使用しないでください。たばこの吸いからの投げ捨て、花火等しないでください。
- ③駐車場防水層の上に有機溶剤、ガソリン、不凍液などをこぼさないでください。防水層が軟化し、ふくれ、剥がれを生じる恐れがあります。
- ④駐車場防水層の上で重い箱などを引きずったり、角材、金属材、工具などを落下させないでください。防水層に剥離、損傷を生じる危険があります。
- ⑤駐車場防水層の上にテーブル等脚のついた物を置く場合は、脚をゴムキャップ、布等で覆ってください。角のある重い物を置く場合は下にゴム板等を敷いてください。カッターなどの刃物、鋭利な先の尖った物を落とさないでください。ゴルフ等の練習をしないでください。防水層に剥離、損傷を生じる危険があります。
- ⑥駐車場防水層の上タイヤチェーン、スパイクタイヤ、ラバーチェーンは使用しないでください。防水層を損傷する危険があります。
- ⑦駐車場防水層の上で犬、鶏などの動物を飼わないでください。防水層が傷む危険が大です。飼う場合には特別仕様による表面の保護工事（有償）が必要なので、表記防水工事業者にご相談ください。
- ⑧駐車場防水層に穴をあける、貫通させる、また、駐車場防水施工箇所から設備機器、架台、配管等を取り外す等の工事は必然的に接面する防水層からの漏水危険が伴います。必ず表記防水工事業者に事前相談いただき、御用命頂くようお願いいたします。
- ⑨ブルドーザーや雪かき機等の重機による除雪は防水層を著しく傷めるので厳禁です。
- ⑩除雪の用具は樹脂製角型のスコップが最適です。金属製のもの、または樹脂製でも先が刃物状になったもの、尖ったもの等は、防水層を傷める危険があります。
- ⑪駐車場防水層上の車の走行は、事故の防止と摩耗損傷の低減のため、制限速度を時速8km以下としドリフト走行の禁止、急発進等、故意による暴走運転の禁止の厳守徹底を図ってください。
- ⑫車高の低い車両は塗膜防水層を損傷させる恐れがあるので乗り入れは厳禁としてください
- ⑬クレーングラワー防藻剤、殺菌剤等の薬剤は、種類によっては防水層を損傷します。ご注意ください。

＜ 維持管理 ＞

- ①定期的に屋根や防水面の清掃（特にお客様車両タイヤの持ち込みによる小石や砂類の清掃除去）を行ってください。特に排水口回りと隅の部分の泥、枯葉等を良く除去してください。
- ②定期的に表面状態の点検を行ってください。異常が認められる場合は防水施工業者に連絡して補修してください。防水材料及び防水工事に原因が無い場合は有償になります。
- ③施工面の継時的摩耗の進行は不可避です。駐車場防水層では防水層の上に防滑層という保護層を設けますが、防滑層を含む上層部の復元補修（有償工事となります）を繰り返し実施して頂く、防水層を傷めていないので、長期間に渡り駐車場防水層の維持保全を行う事が出来ます。摩耗が確認された時点で上層部の復元補修工事を防水施工業者にご要請頂きますようお願いいたします。なお、防水施工業者以外の業者が復元補修の工事を行った場合には、以後、本保証書に基づく元請業者、防水施工業者及び材料供給者の責任は、全て免責となります。
- ④保護仕上げ材は摩耗程度により、3～5年毎に有償にて塗り替え、再施工をしてください。但し、使用頻度や歩行、走行状況により、3～5年以内であっても保護仕上げ材もしくは防滑層が著しく摩耗・損傷し、耐久性、防滑性、安全性に支障をきたす恐れがある場合は、有償にて塗り替え、再施工をしてください。
- ⑤駐車場利用に支障のない防水層のフクレ、浮きは防水保証対象外となります。

＜ 免責事項 ＞

- ①天災地変、火災、爆発、飛来物、地盤の変動等、その他の不可抗力による場合。
- ②建築物の構造・躯体・外壁又は材質もしくは下地の状態に起因する不具合の場合。
- ③熱水、油分、化学薬品、高温蒸気、火災の暴露または物理的な外力による不具合の場合。
- ④施工業者（施工業者が認めた業者を含む）以外の者が行った施工作業又は補修の個所に起因する不具合の場合。
- ⑤使用者が善良な管理者としての維持管理を行わなかった場合、また第三者の加害行為による場合。
- ⑥継続的な過走行に起因する不具合の場合。
- ⑦タイヤチェーン、スパイクタイヤ、バイクスタンド等の不適切な使用、自動車以外の重量物等の設置、移動等による工事面の亀裂・破断・穿孔等のために発生した不具合の場合。
- ⑧施工もしくは材料に起因しない場合。
- ⑨原因の究明が、通常の方法によって困難と認められる不具合の場合。

なお、上記施工箇所にふくれ、浮き、異常な摩耗等の不具合が発生した場合には、引渡後1年間、当該不具合の補修をおこないます。この場合上記①～⑨の免責事項が適用されるものとします。

保証期間内であっても不具合発見後、速やかに申し出がなかった場合は、上記補修対応はいたしません。

本保証は、あくまで施工当時の実用可能な知見に基づくものであることにご理解ください。

また、有効期間が経過した材料が使用された場合、または保管もしくは施工環境につき材料供給者の指示した内容に従わなかった場合には、材料供給者は保証の責任を負いません。

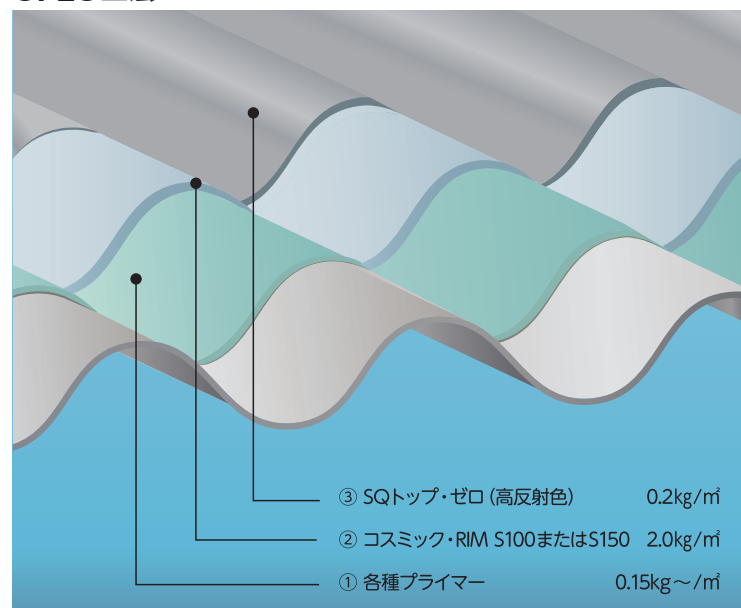
・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

スレート屋根改修仕様(CI-2S工法)

CI-2S 工法は、スレート屋根等に対応できます。

スプレー工法のため、シームレスな防水膜を形成しますので複雑な形状に対応できます。塗膜がスレートを保護し、踏み抜き防止に効果があります。安心安全なスレート屋根改修工法です。室内通常業務に支障をきたしません。

CI-2S工法



CI-2S工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	0.15kg～
2	コスミック・RIM S100またはS150	2.0kg
3	SQ トップ・ゼロ (高反射色)	0.2kg

※ プライマーは用途により異なるためご相談下さい。



・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

コスミック・RIMスプレーシステムの特長

1 工期短縮・省力可

硬化が極めて速く、連続積層吹付けが可能です。
また、工期が短縮できます。硬化の速さは外気温に影響されにくく吹付け直後の降雨も心配ありません。

2 機械施工による高精度・高品質

吹付け機械が材料温度・配合比・混合・吐出などを管理します。よって均質で精度が高く、高品質な塗膜が得られます。

3 優れた塗膜性能

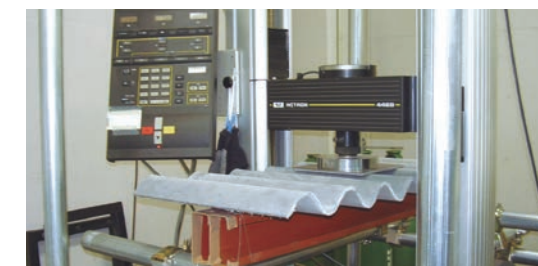
専門機械を使用して精度の高い施工をしますので、ウレタン塗膜は耐磨耗性・耐久性に優れます。また、伸び・弾性のあるシームレスな塗膜を形成し、高い防水性能を発揮します。

コスミック・RIMスプレーシステムの塗膜性能

古いスレートにコスミック・RIMスプレーシステムを施工した後の強度を測定しました。

強度試験 (圧縮)

ウレタン有／最大荷重2488 (N)
ウレタン無／最大荷重1998 (N)
クロスヘッド移動速度10mm/min



コスミック・RIMスプレーシステムの施工手順



1. プライマー塗布



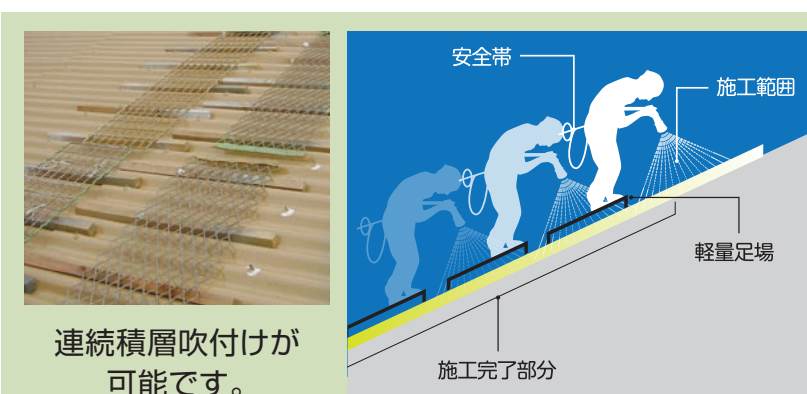
2. コスミック・RIM S100
又はS150吹付け



3. ボルト廻りシーリング処理



4. SQトップ・ゼロ (高反射色)
塗布

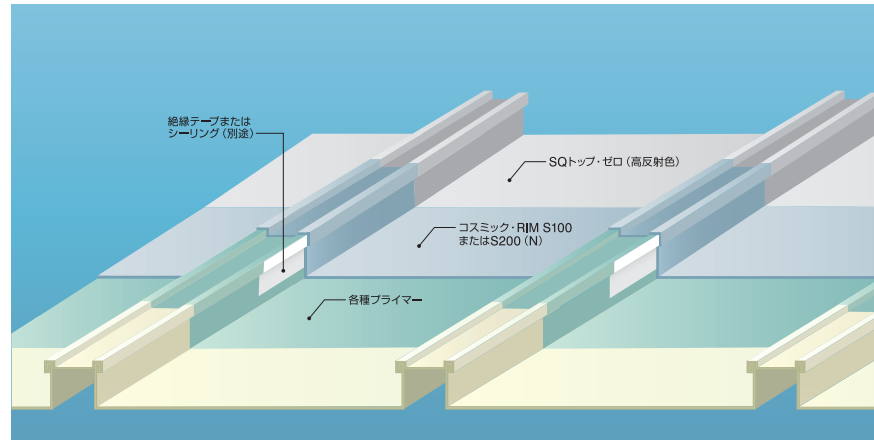


連続積層吹付けが可能です。

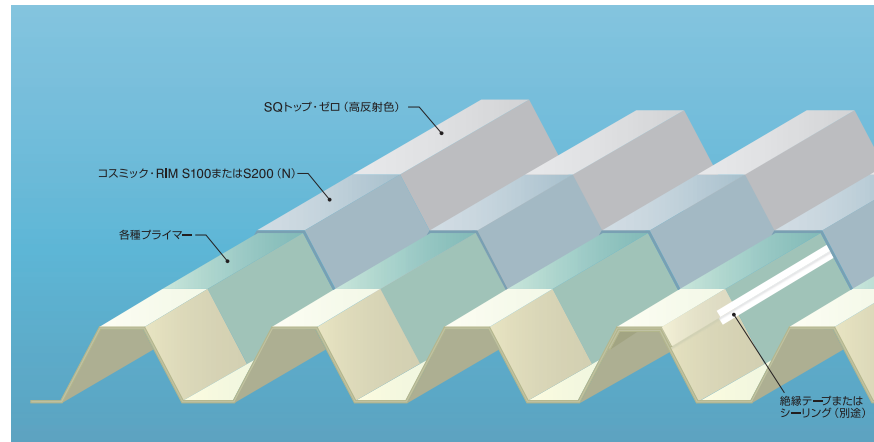
鉄部防錆・防熱・防水仕様（CI工法）

鉄 CI 工法は、鉄骨階段、鋼板屋根（折板、瓦棒）等に対応できます。
スプレー工法のため、シームレスな防水膜を形成しますので複雑な形状に対応できます。
塗膜が鋼材を保護し、耐久性が向上します。また、鉄骨階段等では靴音等の防音に効果があります。

瓦棒屋根



折板屋根

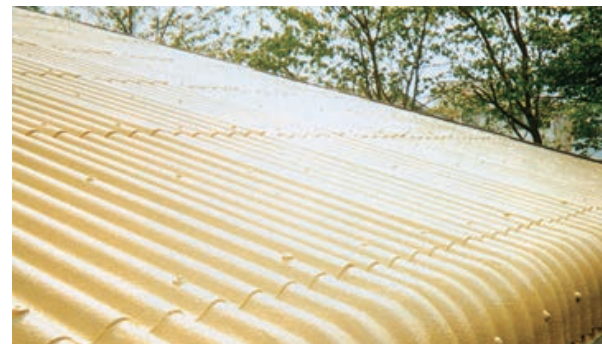


CI-1（防錆仕様）工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー※1	0.15kg
2	コスミック・RIM S100 または S200（N）	1.6kg
3	SQ トップ・ゼロ（高反射色）	0.2kg※2

CI-2（防水＋防錆仕様）工法

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー※1	0.15kg
2	コスミック・RIM S100 または S200（N）	2.0kg
3	SQ トップ・ゼロ（高反射色）	0.2kg※2



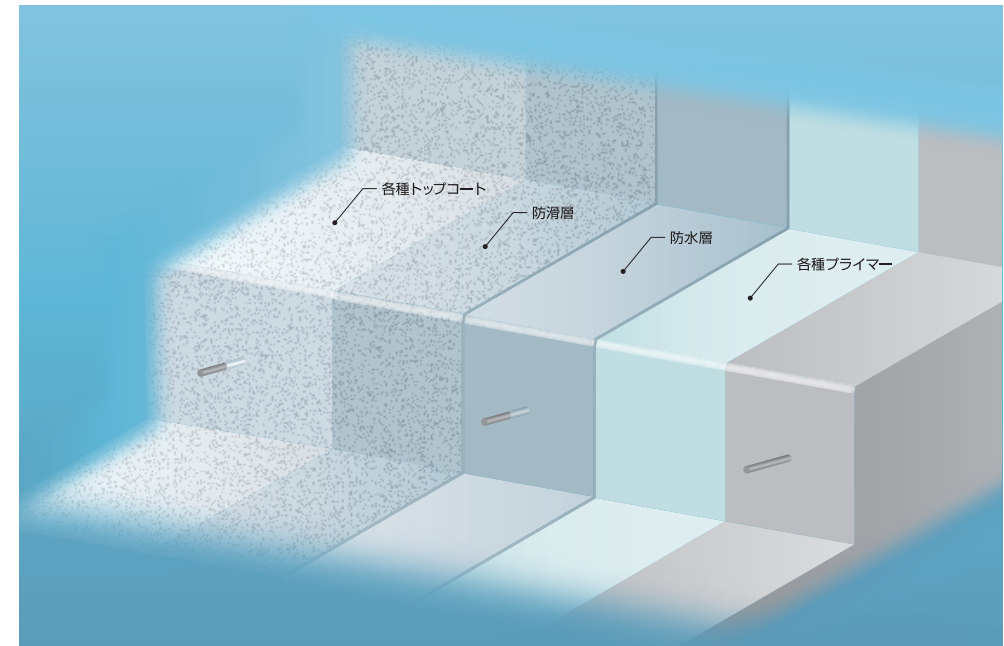
※1 プライマーは、施工環境や用途により異なります。
※2 オートトップ・ワンとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。
・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

スタジアム・観覧席防水仕様（SK工法）

超速硬化ウレタン吹付工法のため従来の手塗り工法に比べ、工期を大幅に短縮できます。

立上がり面もダレることなく均一な厚みが確保できます。
スプレー工法のため、コテむらがなく仕上がります。
耐摩耗性が抜群に優れています。
施工が速いため、大幅に工期を短縮できます。
超速硬化のため、次工程までの養生時間が必要無く、連続して仕上げ（トップコート）工程が可能です。

SK-EK20工法（防滑仕様）



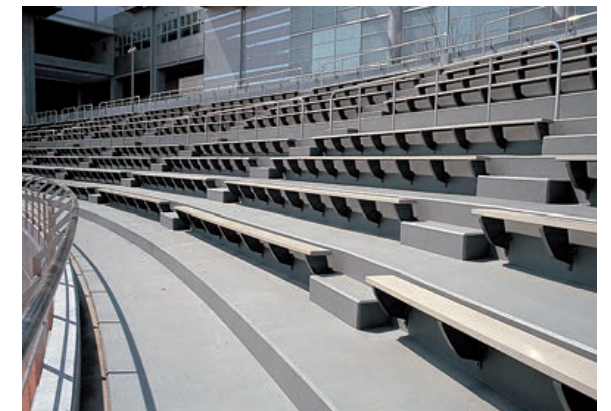
SK-EK20工法【防滑仕様】

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	—
2	コスミック・RIM S100 または S150	2.0kg
3	コスミック・RIM S100 または S150 + PK 骨材	1.0kg + 0.4kg※1
4	各種トップコート	0.2kg

※1 超速硬化ウレタン1.0kgでPK骨材で固着してください。

SK-20工法【観客席防水仕様】

工程	使用材料	使用量/㎡
1	各種プライマー	—
2	コスミック・RIM S100 または S150	2.0kg
3	各種トップコート	0.2kg

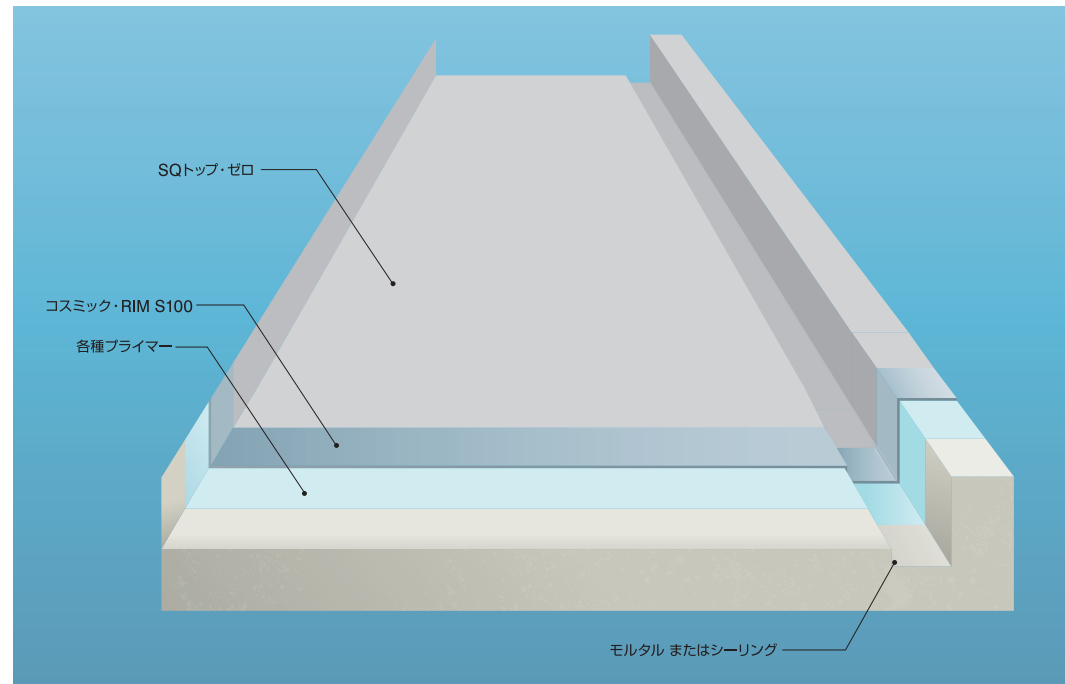


・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

開放廊下／一般床仕様（SSG 工法）

コスミック・RIM は環境に優しい無溶剤材料。
さらに水性プライマーと組み合わせることで、臭気を抑えた塗床工事が可能となります。
耐摩耗性に優れていますので、通行量の激しい床にも最適です。
抗張積が高く、クラックへの追従性に優れています。

SSG 工法



SSG-20 工法

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	—
2	コスミック・RIM S100	2.0kg
3	SQトップ・ゼロ	0.2kg

SSG-15 工法

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	—
2	コスミック・RIM S100	1.5kg
3	SQトップ・ゼロ	0.2kg



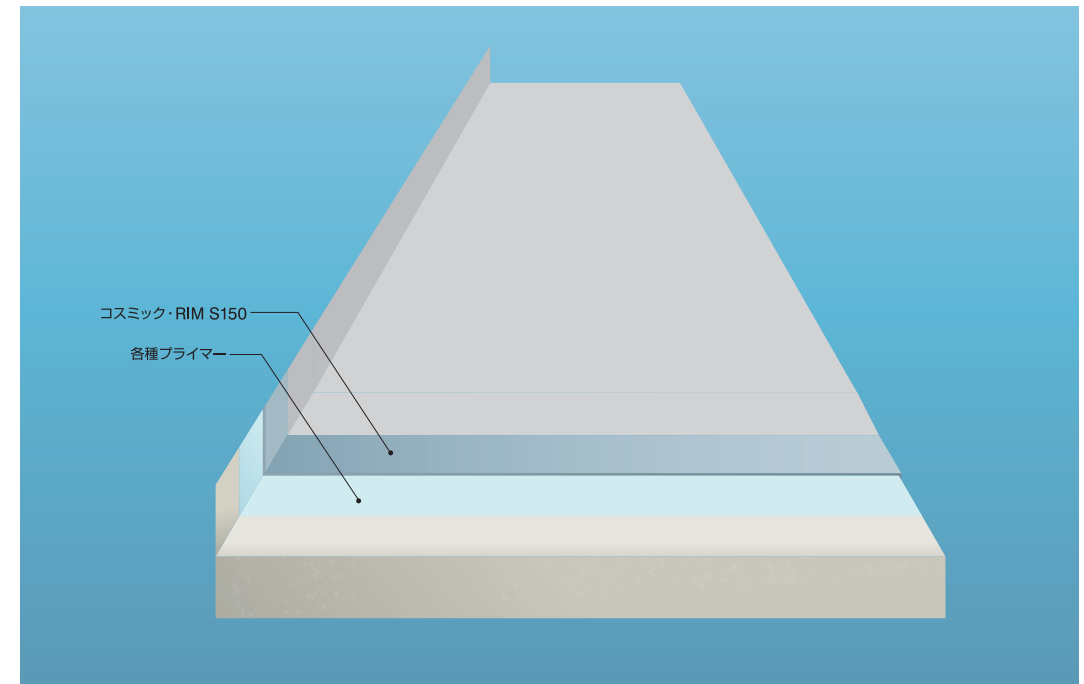
・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

高荷重床仕様（SH 工法）

高強度のため倉庫の床、フォークリフト走行場所等の荷重がかかる床に最適です。

超速硬化吹付工法のため、大幅に工期が短縮できます。垂直面、傾斜面でもダレません。
高物性ですので、倉庫の床、フォークリフト走行場所等の荷重がかかる床に適しています。
耐薬品性に優れています。

SH 工法



SH-40 工法【高荷重床仕様】

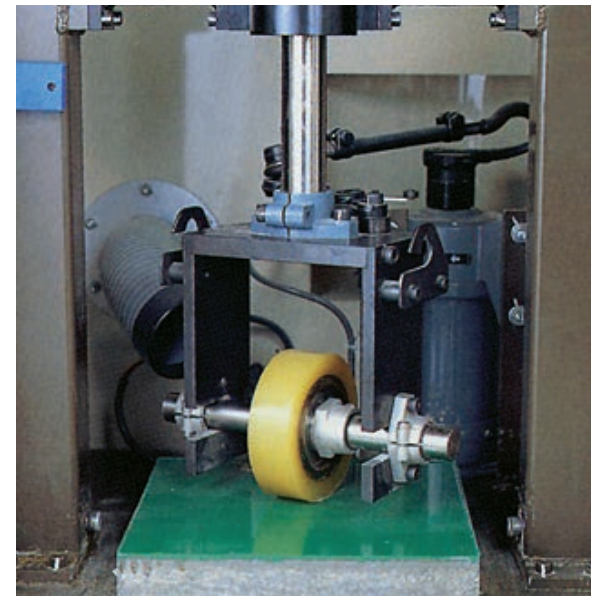
工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	—
2	コスミック・RIM S150	4.0kg

SH-50 工法【高荷重床仕様】

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	—
2	コスミック・RIM S150	5.0kg

SH-20 工法【立上り仕様】

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	—
2	コスミック・RIM S150	2.0kg



・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

施工条件

■ 防水施工条件【新築】

信頼性の高い防水層を設置するため、防水施工の前に以下の項目について条件が満たされていることをご確認ください。

- 下地の強度が十分であること。
 - 現場打ちコンクリートは設計基準強度を満たしていること。
 - 防水層に悪影響を及ぼさないように配筋上の配慮や調査設計上の工夫、ならびに打設後の養生等の施工管理に注意することでひび割れの発生を少なくし、分散させる。
 - 降雨中のコンクリート打設、及びコンクリート打設後の降雨等で強度が著しく低下している場合は、ハツリ撤去の上コンクリートを打ち直す等の処置にて強度を復旧させる。
- 下地の乾燥が十分であること。
 - 目視にて表面が白く乾燥していることを確認する。
一般的に普通コンクリートで夏季3週間・冬季4週間程度の乾燥養生期間を目安とするが、下地構成（デッキプレートなどの片面乾燥や吸水性の高い下地等）や天候によって大きく左右されるため、防水層の施工に先立ち以下のような方法で十分に乾燥していることを確認する。
(a)高周波静電容量式水分計を使用した測定。
(b)不透湿シートで床下地表面を覆い周囲をガムテープ等の張付けで密封状態とし、翌日に内面の結露水の有無を確認する。
- 表面が平滑であること。
 - 平場面は金ゴテ押えで平滑とする。また、施工前に床研削機（ポリッシャー等）を用いて全面に研磨を行う。
 - 浮き・表面剥離・レイタンス等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。
 - 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。
 - 特に超速硬化ウレタン・ポリウレアの吹付け面は仕上り（ピンホールの発生等）に影響するため、凹凸や段差を無くす。
 - 立上りも平場と同様に平滑とし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。
 - ポリマーセメントを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得よう、高い接着強度と圧縮強度、また耐溶剤性を有する材料「ダブルテックスNEO」を使用するか、手塗りウレタン塗膜防水材にて下塗り処理を施す。
- できるだけ速やかに排水させるための処置を施すこと。
 - 水勾配は1/100 以上とする。
 - ルーフドレンや排水落し口等はスラブ面より低くし、周囲の水はけを良くしながら堅固に設置する。
 - ドレンはアスファルト防水用またはシート防水用のツバが幅広タイプのもを使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。
 - ドレンの排水能力は将来の改修工事を見据えて余裕を持たせた設定が望ましい。またドレン以外にもオーバーフロー管を設置し、ここから雨水が落ちてくることで使用者にドレンの目詰り等の排水機能の低下を知らせる措置が望まれる。
- 下地表面がよく清掃されていること。
 - プライマーや接着剤の接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
- 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。
 - 防水層に支障が無いひび割れ（概ね1.0mm未満）には手塗りウレタン塗膜防水材（以下：手塗りウレタン）、またはポリウレタン系シーリング材の擦り込みを施すか、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。
但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
 - 防水層に支障があるひび割れ（概ね1.0mm以上）や打継ぎにはU カット後ポリウレタン系シーリング材を充填するか、手塗りウレタン+補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。
但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
 - 誘発目地・化粧目地には予めポリウレタン系シーリング材を充填しておき、状況に応じて手塗りウレタン+補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。
但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- 入隅および出隅が適切に処理されていること。
 - 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。また出隅および立上りの出隅は通りよく、R 面または45 度/W = 5mm以上（メーカー推奨値15 ～ 30mm程度）の面取りを施す。
- 設備基礎関連で適切な雨仕舞いができること。
 - コンクリート基礎は原則「躯体一体型」とし、防水層の上に載せることは極力避ける。とくに総重量の大きい設備の場合はこれを遵守する。
 - 総重量および容積が大きい大型設備の基礎架台は、将来の改修工事を見据えて再塗布が可能となるような作業空間（H450mm程度以上、推奨600mm程度以上）を確保することが望ましい。
 - 表面は平滑とし、不具合部には適切な処置を施す。また天端は雨水が滞留せず、速やかに排水されるように水平ではなく角度を付けることが望ましい。なお入隅および出隅については7. - (1)と同様とする。
 - アンカー類は原則「先打ち」とし、周囲に幅・深さ10mm程度の「盗み」をとっておく。
 - 基礎ブロックの下やCチャン（リップ溝形鋼）・H鋼等と防水層が取合う部分には防振ゴム（t=5mm／先端から10mm以上の余剰分を確保）を

設置する。また防水層の巻上げ（天端よりH＝15mm以上）を確保する。

- 金物関連の取合いで適切な雨仕舞いができること。
 - H型鋼や角形鋼管を垂直に設置する場合はベースプレートで完全に固定し、ボルトにはキャップとポリウレタン系シーリング材充填を施す。
 - 丸カン・手摺支柱足元等は周囲に幅・深さ10mm程度の「盗み」をとって、予めポリウレタン系シーリング材を充填しておく。また防水層の巻上げ（H＝15mm以上）を確保する。
 - ウレタン塗膜防水材が掛かる部分は目荒し研磨（サンドペーパー #100程度またはサンダー掛け）を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融亜鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入念に行う。
- 配管および配線が防水施工に支障が無いこと。
 - 防水層上での配管および配線の設置は防水施工の後とするか、または施工に支障が無い段階での工事とする。また将来の改修工事を見据えて、再塗布が可能となるような措置（高さの確保、または吊上げが可能な形状と荷重）をとることが望ましい。
 - 防水層を貫通する配管や配線は可能な限り避けること。止むを得ず設置する場合は防水施工に支障が無い位置とし、スリーブを使用してさらに手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）+補強布による補強張り、または超速硬化ウレタン・ポリウレアによる塗掛けの確保を100mm以上（推奨値）を施す。なお、スリーブはグラつきが無いように完全に固定する。
- 吹付け施工ができる環境が整っていること。
 - ホースの全長（およそ60 ～ 90m）に見合った位置にシステム車両と材料（ドラム缶）が設置できる場所を確保する。
 - 仮設足場は屋根の床面から1,800mm以上の高さを確保する。
 - 空調設備・換気設備は吹付け施工中は運転を停止し、吸気口等からの超速硬化ウレタン・ポリウレアの室内への流入を防止する。
- PCa 下地および ALC 下地の場合の注意点は、以下の通りとする。
 - 水勾配は躯体でとり、部材は固定を十分に行いジョイントに生じるムーブメントを可能な限り抑えること。
 - 接合部の目違い・段差は、なだらかなるようにサンディングまたはポリマーセメントを塗布する。
また目地部についても空隙無く平坦になるように充填する。
 - 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は絶縁テープ（FJテープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）+補強布による補強張りにて絶縁処理、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。
 - 表面はポリマーセメントで平滑に仕上げる。その際使用する材料は3.- (6)と同様のものとする。

■ 各工法施工上および仕上りに関する注意事項【新築】

〈 共通事項(施工) 〉

- ウレタンおよびプライマー・トップコートの施工中、または硬化養生中に降雨・夜露等の水分にさらされる可能性がある場合は施工を控えてください。とくに水系材料は気温によって硬化時間が大きく左右されるため、注意してください。
- 溶剤系材料のうち、一部屋内の使用においては特定化学物質障害予防規則の対象となります。その場合は、同規則に従い特定化学物質作業主任者を選任するなど法令順守をお願いします。
- 下地に応じて適切なプライマーを選定してください。
- プライマー塗布時、下地への吸い込みが多い場合は再塗布してください。
- 使用する材料は必ず保存期間内のものをご使用ください。
- 材料の扱いに際してはSDS（安全データシート）やPDS（プロダクトデータシート）をよく読み、適切な扱いを行ってください。
- 材料は直射日光や風雨に晒される場所を避け、冷暗所にて貯蔵・保管してください。
- 材料の貯蔵・保管場所へは作業員以外の立入りを禁止し、また転倒防止や火気厳禁等の安全対策を講じてください。
- 産業廃棄物(廃材・廃液)は適切に処理してください。
- 外断熱工法の施工の場合、施工現場が湖沼や河川の近くである場合、また夜間の気温が下がる時季は結露が生じることが多くなります。とくにトップコートの「艶引け(乾燥硬化前に水分の影響による現象)」を避けるため、午後からの塗布作業には十分注意してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には、スプレーシステム内(シリンダーポンプおよびホース)に残っている異なる種類の材料や古い材料の入替えを必ず行ってください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず飛散対策養生を施してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず設定温度まで加温して適正な粘度に調整してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず一斗缶またはバール缶等の中に試し吹きを行い「適正な吹付け圧力である」こと、「液漏れ・硬化不良が無い」ことを確認し、吹付け施工中はA剤とB剤の吹付け圧力差が1MPa以内であることを確認してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアは希釈せず、そのままでご使用ください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの吹付け施工後は、当日のうちにトップコートを塗布するようにしてください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアおよび手塗りウレタンの塗布後に降雨・降雪または夜露等の水気にさらされた場合や、塗継ぎ・増塗りおよびトップコートの塗布が翌日以降になる場合は、次工程で塗布する材料との接着力低下を防止するために表面を良く清掃し、層間プライ

マーの塗布を行ってください。

- 風通しの悪い場所で施工する場合は防毒マスクの着用や換気装置の設置を行い、十分な安全対策を講じるとともに、材料の硬化状況にもご注意ください。
- 2成分形タイプの製品は、必ず主剤と硬化剤の組合せを守ってください、不具合の原因となります。
- 2成分形タイプの材料攪拌(超速硬化ウレタン・ポリウレアを除く)は、規定の配合比を守り攪拌機で行ってください。なお攪拌機はモーターの出力が大きく、かつ回転の遅いものを使用してください。回転が速いと気泡を巻き込み、ピンホールの発生や仕上りを悪くすることになります。
- 手塗りウレタン塗膜防水材を希釈する場合は、専用の希釈剤を規定量を守ってご使用ください。
- 冬季などで手塗りウレタン塗膜防水材の硬化を早める場合には、必ず専用の硬化促進剤を規定量を守ってご使用ください。
- 脱気装置を設置する際は、原則水上に設置してください。また脱気装置は金属製であるため、避雷導線は1.5m以上離して設置してください。
- アンカー類の穿孔は所定の穿孔径・穿孔深さを守り、垂直になるよう行ってください。また孔内および周辺の切粉は必ず除去してください。
- 小分けする場合は、必ずプレミキシングを行ってください。

〈 共通事項(仕上り)〉

- 超速硬化ウレタン・ポリウレアは「エンボツ仕上げ」となります。
- 下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。
吹付け直後に短時間で指触乾燥・硬化する超速硬化ウレタン・ポリウレアは、下地凹凸やシートジョイントまたテープ類の端部等の形状をトレースしやすい傾向にあります。
- 外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
- 高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーフバルコニー等の居室付近での塗布は避けてください。
- 粗面仕上げにする場合は「粗面仕上げ材」「エストップ#20」「エストップ#40」のいずれかを添加してください。
但しいずれも防滑性能を保証するもではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- 現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
- 各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
- 各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。

〈 機械的固定工法 〉 P.9、10、11

- 下地状況や既存防水層の厚み等により、使用するアンカーの長さを選定してください。
- ALC下地の場合はエポキシ樹脂等を使用するなど、必ず強度を出すようにしてください。
- 機械固定工法用通気緩衝シート「CAマットG」「CAマットSB 機械固定用」は、強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- シートやテープが皺にならないように注意してください。
- 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃え、と、超速硬化ウレタン・ポリウレア吹付け後に破断することがありますので、500mm以上ずらしてください。
- 穿孔後の切粉はウレタン塗膜防水層との接着不良を起こす原因となりますので、掃除機等で必ず吸い取って除去してください。
- アンカーの固定強度だけでは不十分な箇所は、必要に応じてボンドを併用してシートを固定してください。
- ハードエッジドライブの施工時に過剰な締め付けをしないでください。必要以上に締め付けるとネジの折れや頭飛びをする恐れがあります。またインパクトドライバーの最大トルク値は、ハードエッジドライブのねじり破断トルク値よりはるかに高いため“強力型”は用いず、トルク値には十分注意しながら低回転でゆっくりと施工してください。
- ランスロックキャントNやTルーフプレートA型は既存入隅部形状に合わせて選択してください。ランスロックキャントNやTルーフプレートA型は夏場の熱による膨張を加味し、隙間をつくって取り付けてください。(夏施工時：隙間1mm、冬施工時：隙間2mm)
- 機械的固定工法は全面接着と異なり、柔軟性の高い防水層をアンカーを用いて部分的に躯体コンクリートに連結する工法です。したがって防水層の表面にシワや段差が発生する場合があります。これは「膨れ」とは異なるため防水機能上に問題はありません。

■ 防水施工条件【改修】

改修工事の場合は既設防水層の種別や劣化状況、および撤去の有無、また新設の防水仕様の種別によって下地処理の内容が異なります。

以下の項目をご参考に、現場に即した適切な処置を行ってください。

1. 下地の乾燥が十分であること。

- (1) 新設する防水層に支障が生じないよう、高圧水洗浄後は十分に乾燥させる。また保護仕様の場合、保護コンクリート内に残留水分があるため冬季の施工ではとくに注意し、可能な場合は洗浄に替えて機械研削を行う。

2. コンクリートおよびモルタル部が健全であること。

- (1) 下地面は平滑にする。
- (2) 浮き・表面剥離等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。

- (3) 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。
- (4) 特に超速硬化ウレタン・ポリウレアの吹付け面は仕上り(ピンホール発生時)に影響するため、凹凸や段差を無くす。
- (5) 露筋・爆裂は脆弱部を撤去し、鉄筋の錆を落した後断面修復材で処置を施す。
- (6) 立上りも平場と同様に平滑にし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。
- (7) ポリマーセメントを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い接着強度と圧縮強度、また耐溶剤性を有する材料「ダブルテックスNEO」を使用するか、手塗りウレタン塗膜防水材にて、下塗り処理を行う。

3. 排水勾配は排水に支障がない程度とする。

- (1) 水勾配は1/100以上とする。
- (2) 既設のルーフドレンや排水落し口等の周囲の水はけが著しく悪い場合は、周囲のハツリ撤去や納まりの検討を行って勾配修正を施す。
- (3) 改修用ドレンはウレタン塗膜防水用を使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。また設置に際しては排水面積計算を行い、場合によってオーバーフロー管の設置や既設ドレンの継続使用を行う。

4. 下地表面がよく清掃されていること。

- (1) プライマーや接着剤の接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
- (2) ドレン付近に堆積した泥土やゴミ、繁茂しているコケ・植物等も完全に除去する。

5. 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。

- (1) 防水層に支障が無いひび割れ(概ね1.0mm未満)には手塗りウレタン塗膜防水材(以下：手塗りウレタン)、またはポリウレタン系シーリング材の擦り込みを施すか、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。
但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- (2) 防水層に支障があるひび割れ(概ね1.0mm以上)や打継ぎにはU カット後ポリウレタン系シーリング材を充填するか、手塗りウレタン+補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。
但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- (3) 誘発目地・化粧目地には予めポリウレタン系シーリング材を充填しておき、状況に応じて手塗りウレタン+補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。
但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。

6. 入隅および出隅が適切に処理されていること。

- (1) 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。また出隅および立上りの出隅は通りよく、R 面または45 度／ W = 5mm以上(メーカー推奨値15 ～ 30mm程度)の面取りを施す。

7. コンクリート基礎廻りで適切な雨仕舞いができること。

- (1) 既設の基礎下部に隙間がある場合はポリウレタン系シーリング材の充填を施し、新規ウレタン塗膜層で巻き込む。
- (2) 既設の防振ゴムが著しく劣化している場合は取替えを行うか、余剰分を切除した後入隅にポリウレタン系シーリング材を打ち、コンクリート基礎ごと新規ウレタン塗膜層で巻き込む。また挙動部は手塗りウレタン(推奨：塗膜防水層100mm以上)+補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹き等の処置を施す。

8. 金属類の取合いが適切に処置されていること。

- (1) 防水層と取合う金属部分は表面の汚れ・油脂類・錆・塗料を除去し、プライマーの接着が阻害されないようにする。
- (2) 発錆や腐食が進行し、著しく劣化したものは交換をする。
- (3) 固定不良が無いことを確認する。また挙動が頻繁あるいは大きいと思われる箇所については、絶縁テープ(FJテープ)を張り、手塗りウレタン(推奨：塗膜防水層100mm以上)+補強布による補強張りにて絶縁処理、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアによる塗掛けの確保を100mm以上(推奨値)を施す。
- (4) ウレタン塗膜防水材が掛かる部分は目荒し研磨(サンドペーパー #100程度またはサンダー掛け)を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融亜鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入急に行う。

9. シーリング材の設置が適切にされていること。

- (1) 劣化が進行しているシーリング材は撤去し、打替えを行う。
- (2) 防水層に支障を生じさせないように、シーリング材の種別選択は適切に行うこと。
- (3) 防水層端末・金物の取合い等、必要に応じて適切なシーリング材が設置されていること。

10. 保護層の伸縮目地に適切な処置がされていること。

〈MGテープ〉

- (1) 既設目地部のキャップおよび保護コンクリート表面より突出している目地材は撤去する。伸縮目地の交差部はクロスラップさせずに張り付ける。

〈MGタイト〉

- (2) 既設目地材は十分に除去し、水上がりを防止するために空隙を必ず設けた上でバックアップ材を設置する。その後MGタイトで平滑に仕上る。

11.吹付け施工ができる環境が整っていること。

- (1) ホースの全長 (およそ 60 ～ 90m)に見合った位置にシステム車両と材料 (ドラム缶)が設置できる場所を確保する。
- (2) 仮設足場は屋根の床面から 1,800mm以上の高さを確認する。
- (3) 空調設備・換気設備は吹付け施工中は運転を停止し、吸気口等からの超速硬化ウレタン・ポリウレアの室内への流入を防止する。

12.PCa 下地および ALC 下地の場合の注意点は、以下の通りとする。

- (1) 水勾配は躯体でとり、部材は固定を十分に行いジョイントに生じるムーブメントを可能な限り抑えること。
- (2) 接合部の目違い・段差は、なだらかなるようにサンディングまたはポリマーセメントを塗布する。また目地部についても空隙無く平坦になるように充填する。
- (3) 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は、絶縁テープ (FJテープ)を張り、手塗りウレタン (推奨：塗膜防水層 100mm以上)+補強布による補強張りにて絶縁処理、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。
- (4) 表面はポリマーセメントで平滑に仕上げる。その際使用する材料は 2. - (7)と同様のものとする。

■ 各工法施工上および仕上りに関する注意事項【改修】

〈 共通事項(施工) 〉

- ウレタンおよびプライマー・トップコートの施工中、または硬化養生中に降雨・夜露等の水分にさらされる可能性がある場合は施工を控えてください。とくに水系材料は気温によって硬化時間が大きく左右されるため、注意してください。
- 溶剤系材料のうち、一部屋内の使用においては特定化学物質障害予防規則の対象となります。その場合は、同規則に従い特定化学物質作業主任者を選任するなど法令順守をお願いします。
- 下地に応じて適切なプライマーを選定してください。
- プライマー塗布時、下地への吸い込みが多い場合は再塗布してください。
- 使用する材料は必ず保存期間内のものをご使用ください。
- 材料の扱いに際しては SDS (安全データシート)や PDS (プロダクトデータシート)をよく読み、適切な扱いを行ってください。
- 材料は直射日光や風雨に晒される場所を避け、冷暗所にて貯蔵・保管してください。
- 材料の貯蔵・保管場所へは作業者以外の立入りを禁止し、また転倒防止や火気厳禁等の安全対策を講じてください。
- 産業廃棄物(廃材・廃液)は適切に処理してください。
- 外断熱工法の施工や既設防水層に断熱板が設置されている場合、施工現場が湖沼や河川の近くである場合、また夜間の気温が下がる時は結露が生じることが多くなります。とくにトップコートの「艶引け(乾燥硬化前に水分の影響による現象)」を避けるため、午後からの塗布作業には十分注意してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には、スプレーシステム内(シリンダーポンプおよびホース)に残っている異なる種類の材料や古い材料の入替えを必ず行ってください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず飛散対策養生を施してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず設定温度まで加温して適正な粘度に調整してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず一斗缶またはベール缶等の中に試し吹きを行い「適正な吹付け圧力である」こと、「液漏れ・硬化不良が無い」ことを確認し、吹付け施工中は A 剤と B 剤の吹付け圧力差が 1MPa 以内であることを確認してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアは希釈せず、そのままでご使用ください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの吹付け施工後は、当日のうちにトップコートを塗布するようにしてください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアおよび手塗りウレタンの塗布後に降雨・降雪または夜露等の水気にさらされた場合や、塗継ぎ・増塗りおよびトップコートの塗布が翌日以降になる場合は、次工程で塗布する材料との接着力低下を防止するために表面を良く清掃し、層間プライマーの塗布を行ってください。
- 風通しの悪い場所で施工する場合は防汚マスクの着用や換気装置の設置を行い、十分な安全対策を講じるとともに、材料の硬化状況にもご注意ください。
- 2 成分形タイプの製品は、必ず主剤と硬化剤の組合せを守ってください。不具合の原因となります。
- 2 成分形タイプの材料攪拌(超速硬化ウレタン・ポリウレアを除く)は、規定の配合比を守り攪拌機で行ってください。なお攪拌機はモーターの出力が大きく、かつ回転の遅いものを使用してください。回転が速いと気泡を巻き込み、ピンホールの発生や仕上りを悪くすることになります。
- 手塗りウレタン塗膜防水材を希釈する場合は、専用の希釈剤を規定量を守ってご使用ください。
- 冬季などで手塗りウレタン塗膜防水材の硬化を早める場合には、必ず専用の硬化促進剤を規定量を守ってご使用ください。
- 脱気装置を設置する際は、原則水上に設置してください。また脱気装置は金属製であるため、避雷導線は 1.5m 以上離して設置してください。
- アンカー類の穿孔は所定の穿孔径・穿孔深さを守り、垂直になるよう行ってください。また孔内および周辺の切粉は必ず除去してください。
- 小分けする場合は、必ずプレミキシングを行ってください。

〈 共通事項(仕上り) 〉

- 超速硬化ウレタン・ポリウレアは「エンボツ仕上げ」となります。
- 下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。

吹付け直後に短時間で指触乾燥・硬化する超速硬化ウレタン・ポリウレアは、下地凹凸やシートジョイントまたテープ類の端部等の形状をトレースしやすい傾向にあります。

- 既存防水が外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
- 高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーフバルコニー等の居室付近での塗布は避けてください。
- 粗面仕上げにする場合は「粗面仕上材」J エストップ #20「J エストップ #40」のいずれかを添加してください。
- 但しいずれも防滑性能を保証するものではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- 現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
- 各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
- 各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。

〈 通気緩衝工法 〉 P.7.8.14

- 通気緩衝シートは強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- 自着層付改質アスファルトシート「CA マット G」は短手ジョイントの隙間は 2mm 以内、長手ジョイントの隙間については、3 ～ 5mm 程度離して下さい。
- 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃えると、超速硬化ウレタン・ポリウレア吹付け後に破断することがありますので、300mm 以上ずらしてください。
- 自着層付粘着ブチルゴムシート「CA マット SB」張付け後は、浮きや皺を発生させないために必ず転圧ローラーで十分転圧を行ってください。但し「CA マット G」張付け後の転圧は、ハンドローラー等で行ってください。
- 「CA マット G」を施工する場合は、プライマーの乾燥時間を確実に取って下さい。乾燥時間が不足すると、裏面の改質アスファルトが融解し、通気性能の低下につながる恐れがあります。
- 通気緩衝シート上はスパイクシューズでの歩行を避けてください。シートが破ける恐れがあります。
- 通気緩衝シートの張付け後、ウレタン塗膜防水材の塗布工程が翌日以降になる場合は必ずシート端部およびジョイントの雨仕舞いを行ってください。
- 雨仕舞いを行わず雨や夜露の影響を受けた場合、次工程の乾燥養生に時間がかかったり、膨れや剥離の原因となります。
- 新たに敷設した通気緩衝シートの上に材料を置く場合は、ベニヤ板等で養生を行いその上に置いてください。
- 補強布は通気緩衝シートとの重ね幅を 100mm 以上にしてください。

〈 機械的固定工法 〉 P.9.10.11

- 下地状況や既存防水層の厚み等により、使用するアンカーの長さを選定してください。
- ALC 下地の場合はエポキシ樹脂等を使用するなど、必ず強度を出すようにしてください。
- 機械固定工法用通気緩衝シート「CA マット G」「CA マット SB 機械固定用」は、強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- シートやテープが皺にならないように注意してください。
- 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃えると、超速硬化ウレタン・ポリウレア吹付け後に破断することがありますので、500mm 以上ずらしてください。
- 穿孔後の切粉はウレタン塗膜防水層との接着不良を起こす原因となりますので、掃除機等で必ず吸い取って除去してください。
- アンカーの固定強度だけでは不十分な箇所は、必要に応じてボンドを併用してシートを固定してください。
- ハードエッジドライブの施工時に過剰な締め付けをしないでください。必要以上に締め付けるとネジの折れや頭飛びをする恐れがあります。またインパクトドライバーの最大トルク値は、ハードエッジドライブのねじり破断トルク値よりはるかに高いため“強力型”は用いず、トルク値には十分注意しながら低回転でゆっくりと施工してください。
- ランスロックキャント N や T ルーフプレート A 型は既存入隅部形状に合せて選択してください。
- ランスロックキャント N や T ルーフプレート A 型は夏場の熱による膨張を加味し、隙間をつくって取り付けてください。(夏施工時：隙間 1mm、冬施工時：隙間 2mm)
- 機械的固定工法は全面接着と異なり、柔軟性の高い防水層をアンカーを用いて部分的に躯体コンクリートに連結する工法です。したがって防水層の表面にシワや段差が発生する場合があります。これは「膨れ」とは異なるため防水機能上に問題はありません。

〈下地がウレタン塗膜防水材の場合の塗重ね改修工法(オーバーレイ工法) 〉

- 既存ウレタン塗膜防水層の種類や劣化状況によっては、ウレタン塗膜防水材の塗重ね改修工法(オーバーレイ工法)を採用できない場合があります。

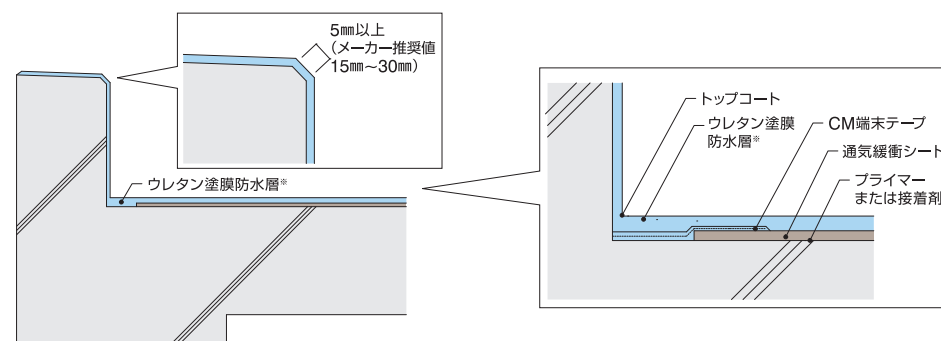
資料

納まり図
使用上の注意事項
消防法関連

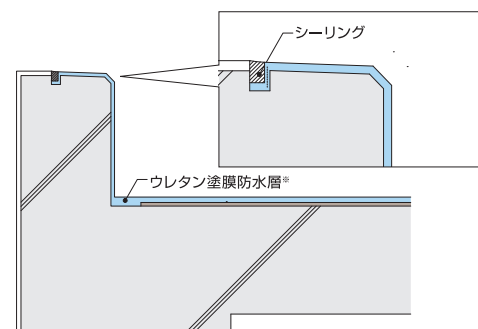
納まり図

ここに掲載する納まりは一般的な代表例です。
現場の諸条件や下地の状況に応じた納まりの検討が必要となります。

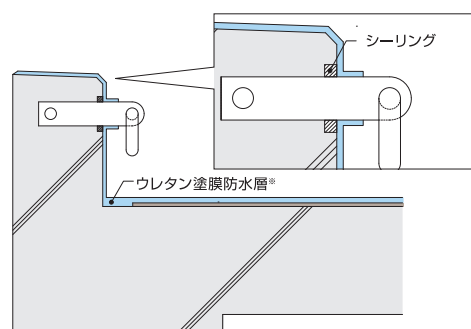
パラペット



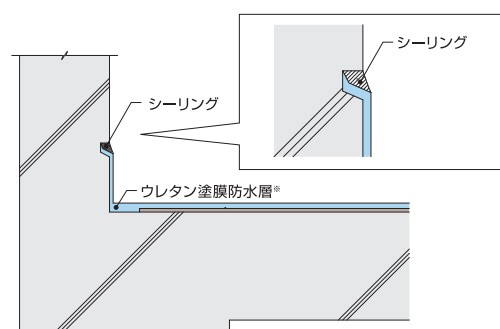
パラペット タイル取り合い



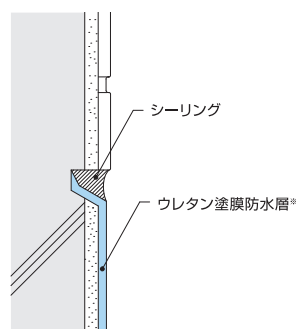
パラペット 丸環まわり



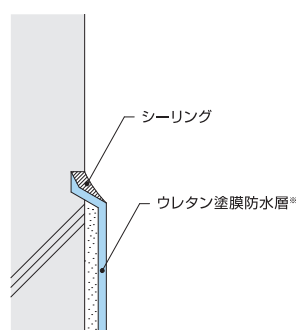
立上り 目地設置



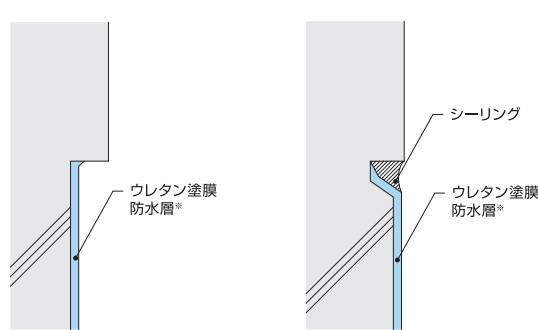
タイル壁取り合い



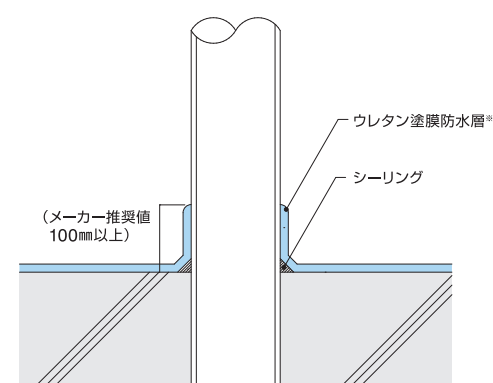
出巾木



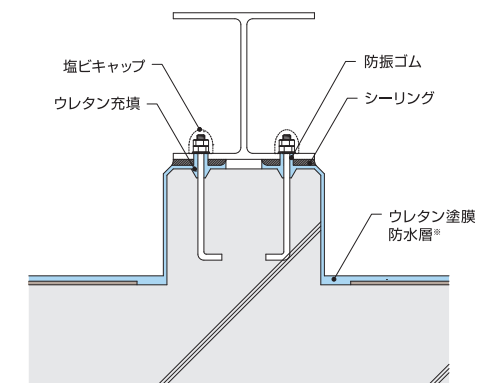
入巾木



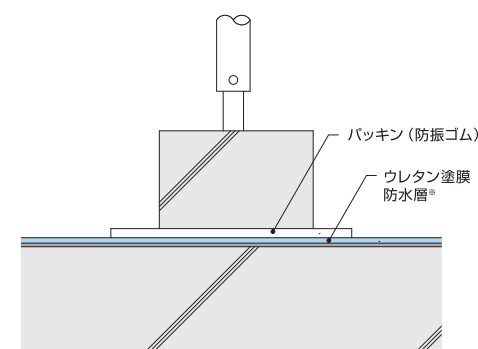
貫通パイプ



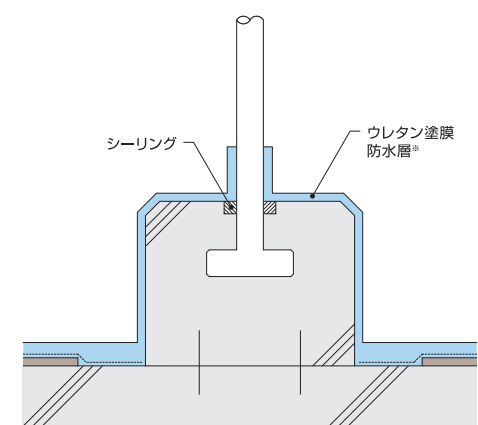
基礎架台



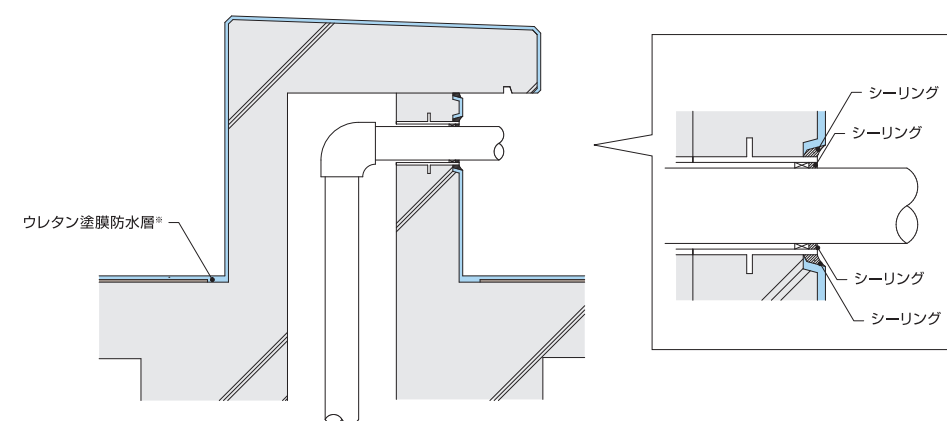
置基礎



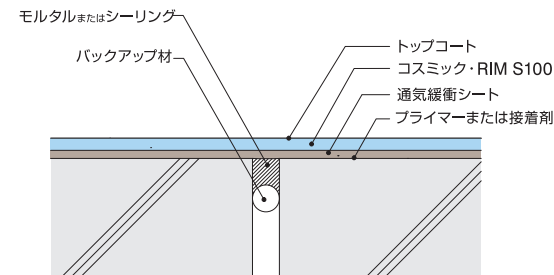
フェンス基礎



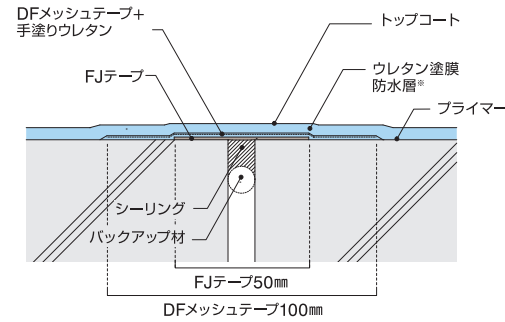
ハト小屋



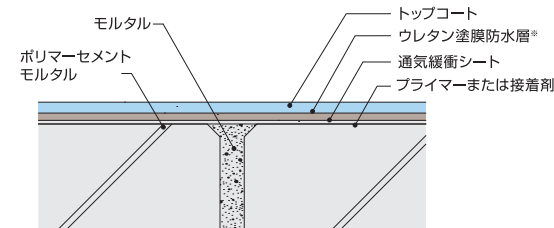
PCa板取り合い（通気緩衝工法の場合）



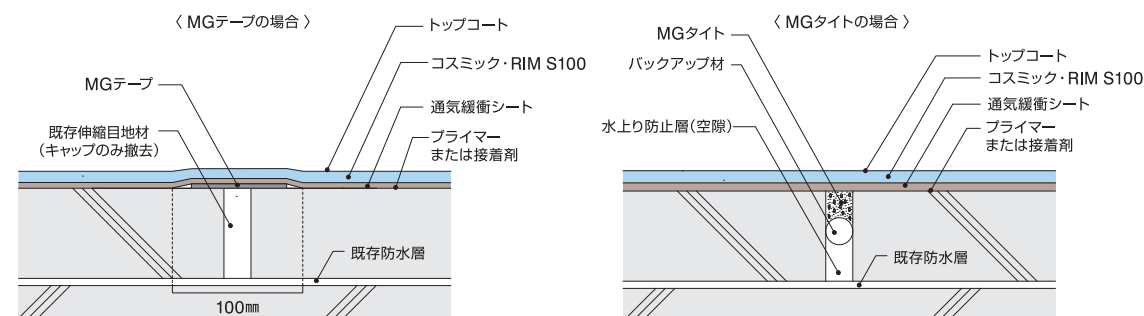
PCa板取り合い（密着・複合密着工法の場合）



ALC板取り合い

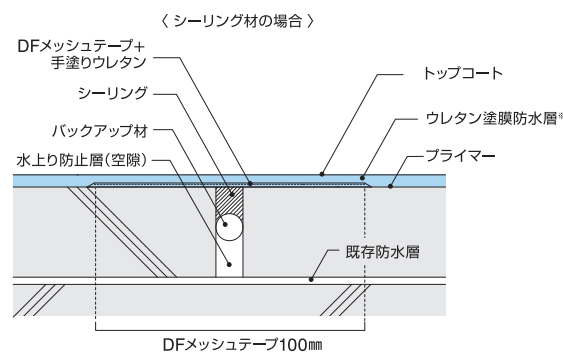


押えコンクリート伸縮目地部（通気緩衝工法の場合）

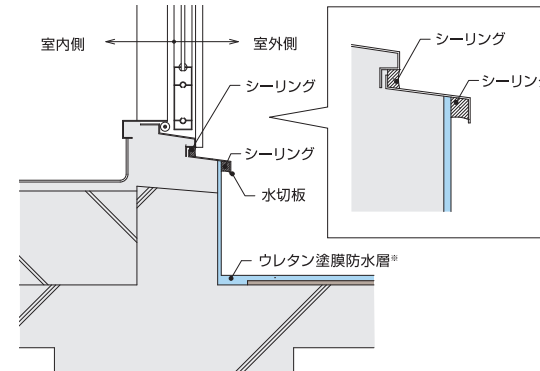


押えコンクリート伸縮目地部（密着・複合密着工法の場合）

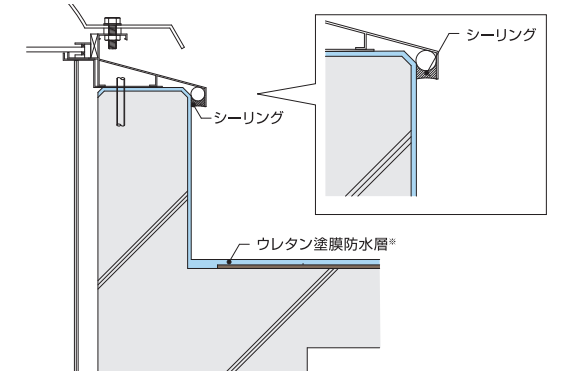
通気緩衝シートが適用できない場合



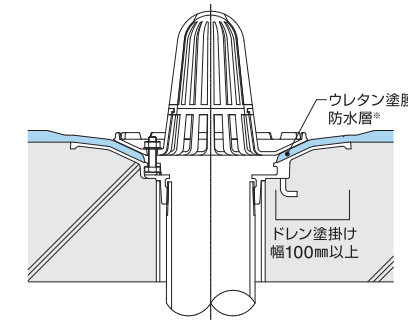
開口部



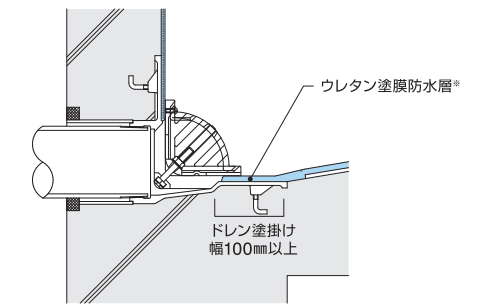
トップライト



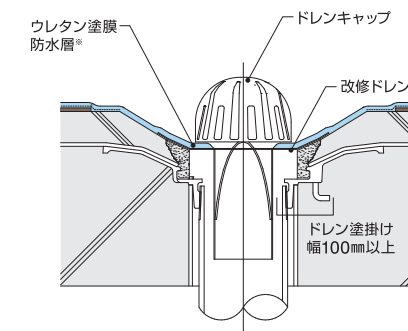
縦型ドレン



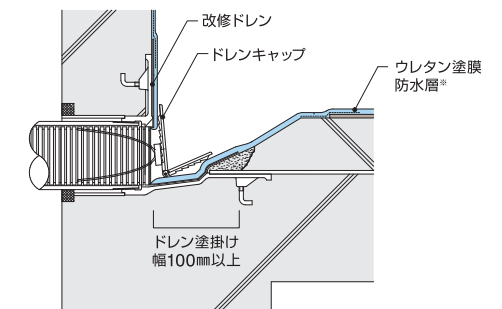
横型ドレン



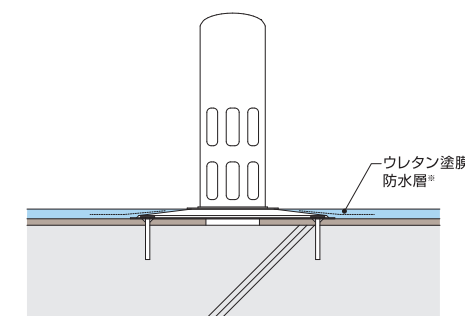
LF改修ドレンU タテ型



LF改修ドレンU ヨコ型



ステンレスペントN

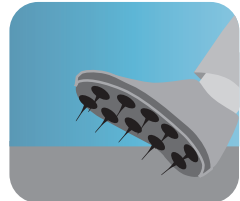


使用上の注意事項／メンテナンス／保証

使用上の注意事項

防水施工後の使用について注意事項が記載されています。
コピーの上、建物管理者様にお渡しください。

■ 次の行為は避けてください。(禁止事項)



スパイクシューズ等接地面の鋭利な履き物で歩行しないでください。



防水層は可燃性なので、火気を使用しないでください。(タバコや花火等)

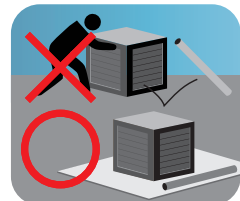


溶剤、ガソリン、不凍液等溶解力のある液剤をこぼさないでください。

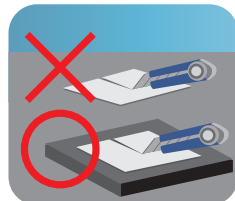


防水層を損傷してしまうため、ゴルフの練習等は行わないでください。

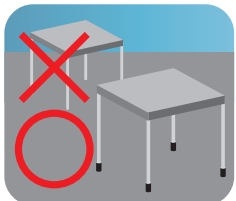
■ 次の場合は対策を打ってください。(対策必要事項)



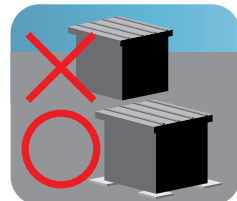
重量物を引きずったり、鉄パイプ等角の鋭利な物を落とさないでください。



カッターナイフ等鋭利な物で作業する際は合板等で十分養生し、防水層を傷付けないようにしてください。



接地面にパイプ状のイスやテーブルを置く場合は、脚先をゴムキャップ等でカバーしてください。



角のある物を置く場合は、間にゴム板等を敷いて養生してください。

■ 次の点には注意してください。(注意事項)



表面が濡れていると滑りやすいので、雨天および降雨後の歩行は注意してください。



クーリングタワーの防藻剤や殺菌剤の種類によっては、防水層を痛める恐れがあるため、薬剤メーカーに確認の上で使用ください。



防水層を清掃する際は、中性洗剤以外を使用しないでください。モップ等のやわらかい清掃用具で行ってください。

植木鉢を置く場合は鉢下に水が溜らぬよう設置してください。長時間の水溜りは防水層の劣化を促します。

設備工事の際、設置の都合で防水層を切断したり、あるいは傷付けて漏水事故につながるケースは少なくありません。設備工事や増設工事を実施される場合は、施工業者あるいは弊社にご相談ください。

防水層の上で犬や猫などのペットを飼わないでください。

定期的なメンテナンス・点検のお願い

防水層を良好に維持することが建物を長持ちさせるポイントです。
ここでは、建物を管理される方におすすめの維持管理の方法をご紹介します。

■ 定期的にドレンを清掃してください。 目安 2回以上/年

飛来した砂塵や枯葉がドレンに詰まってプール状になることがあります。この状態で放置しておくとう防水層の劣化を促進させてしまいます。
お客様にとって大切な資産だからこそ、定期的な清掃をおすすめします。
立地環境により一概には言えませんが、梅雨前の6月、枯葉が飛来する11月に確認するのがよいでしょう。
ただし、建物の周辺に公園や田畑がある場合は飛来物が多量になるため、お客様の建物に合わせて清掃回数を増やしてください。



■ 定期的に防水層の状態を確認してください。 目安 1回以上/年

防水層の定期点検は、人間に例えると定期検診と同じです。
定期的に健康状態を確認し、万一、病気にかかっている場合でも早期発見・早期治療で健康を確保できます。
定期清掃に合わせて、次のポイントをお確かめください。

- 防水層に破断が生じていないか。
- 防水層の端末が剥がれていないか。
- 防水層にフクレが生じていないか。
- シーリングの口開きが生じていないか。
- トップコートが消失していないか。

万一、不具合が発見された場合は、営業担当までご連絡ください。
お電話で内容を確認させていただいた上、必要に応じて点検員がお伺いいたします。



■ 防水保証の考え方

- 施工に起因する場合は、工事を請け負った元請業者ならびに施工業者の責任とします。
- 材料品質に起因する場合は、材料製造業者の責任とします。
- 但し、次の場合は免責とします。
 1. 天災地変、火災、爆発、飛来物、地盤の変動等、その他の不可抗力による場合。
 2. 使用者が善良な管理者としての管理維持を行わなかった場合、また契約時の使用目的と異なる使用方法を採った場合。
 3. 防水施工業者以外の作業の作業によって生じた場合、または火災、爆発、飛来物等防水施工者側に原因せぬことが明らかである場合。
 4. 発注者が防水施工業者の提案を拒否して採用させた設計、施工方法、資材等による工事の場合。
 5. 故障部分について、防水施工業者(防水施工業者が認めた業者を含む)以外の者が補修を行った後に生じた場合。
 6. 故障の原因究明が、通常の方法によっては困難と認められる場合。
- P.31「使用上の注意事項」を守らず、それが原因で生じた漏水事故については、責任を負いかねますので、ご注意ください。
- 防水保証の詳細については当社営業にお問合せください。

■ 防水層のメンテナンスについて

防水層は紫外線の影響により劣化進行します。早めの改修対策により経済的に防水層を維持することができます。
参考に防水層の劣化のしかたと劣化度を示します。

く 防水層の劣化のしかたと劣化度

劣化度 1	劣化度 2	劣化度 3
トップコートの表面が紫外線劣化により白亜化。 防水層の保護塗料であるトップコートがその機能を発揮することで、トップコート表面が粉化する現象。劣化の初期症状といえますが、ひび割れもしくは磨耗にてウレタン層が露出するまでは防水機能に大きな影響はありません。 元の色	表面のトップコートに微細な亀裂が発生。 防水層の劣化が急激に進行するシグナルともいえる時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。	亀裂幅が広がり亀裂の数も増加。 ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。

劣化度 4	劣化度 5	劣化度 6
トップコートが磨耗してウレタン層が露出。 ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。	トップコートが消失し、ウレタン層の紫外線劣化が進行してクレーター状に。 ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。	ウレタン層が消失し、通気緩衝シートが露出。 この症状が床面積の高割合を占めるとオーバーレイ改修が不可能です。機械的固定工法あるいは既存防水撤去後に改修することになります。

消防法関連

■ 消防法における危険物の取り扱いについて

- 指定数量以上の危険物を作業現場で臨時に貯蔵したり取り扱う場合には、所轄の消防本部または消防署長に、また消防本部等のない市町村では市町村長に申請して、仮貯蔵や取扱いの承認を受ける必要があります。
- 危険物品名を異にする2以上の危険物を同一の場所で貯蔵したり取り扱う場合にも、品名ごとの数量をそれぞれの指定数量で除して、その商の和が1以上になるときは、指定数量以上危険物を貯蔵し、または取り扱っているものとみなされます。
- 危険物品名を異にする2以上の危険物の貯蔵も、類別毎にまとめて、それぞれ1m以上の間隔を置けば同時に貯蔵することができます。
- 指定数量の1/5以上、1未満の危険物の貯蔵取扱いは、市町村の火災予防条例により規制の対象となるため、所轄の消防署に届け出る必要があります。
- 指定可燃物とは、「わら製品、木毛その他の物品で火災が発生した場合にその拡大が速やかであり、又は消化の活動が著しく困難となるものとして政令で定めるもの」をいいます。
- 指定可燃物が指定数量1以上の場合には、市町村条例により、所轄の消防本部または消防署長に届け出る必要があります。

第4類(引火性液体)および指定可燃物の品名と指定数量

種 別		指定数量
第4類 第1石油類		200リットル（非水溶性）
		400リットル（水溶性）
第4類 第2石油類		1,000リットル（非水溶性）
		2,000リットル（水溶性）
第4類 第3石油類		2,000リットル（非水溶性）
		4,000リットル（水溶性）
第4類 第4石油類		6,000リットル

〈 危険物の計算例 〉

CI-2工法・1,000㎡相当で使用する材料を施工現場にて貯蔵する場合

(1) 材料積算にて各使用材料の数量(缶)を出した後、下記のようにそれぞれの貯蔵量(ℓ)を算出します。

使用材料		区分	数量 (缶またはドラム)	入目(kg) ①	液比重 ②	貯蔵量(ℓ) 数量×①÷②
コスミック・プライマー EP	主剤	第4類 第1石油類 非水溶性	13	6	0.9	87
	硬化剤	第4類 第1石油類 非水溶性	13	6	0.8	98
コスミック・RIM S100	A剤	第4類 第4石油類	6	200	1.1	1,091
	B剤	第4類 第3石油類 非水溶性	6	175	1.0	1,050
	スプレートナー	第4類 第4石油類	6	15	1.0	90
SQトップ・ゼロ	主剤	第4類 第2石油類 非水溶性	15	6	0.9	100
	硬化剤	第4類 第2石油類 非水溶性	15	9	1.2	113

(2) 上記(1)の貯蔵量(ℓ)を危険物区分ごとにまとめ、それぞれの指定数量で除した(割り算)数値の合計を算出します。
合計の数値が「1以上」である時は指定数量以上の危険物を貯蔵し、または扱っているものとみなされます。

第4類 第1石油類 非水溶性	185	÷	200	=	0.925
第4類 第2石油類 非水溶性	213	÷	1,000	=	0.213
第4類 第3石油類 非水溶性	1,050	÷	2,000	=	0.525
第4類 第4石油類	1,181	÷	6,000	=	0.197
合計	1.86				

上記の例では指定数量の合計が「1以上」となるため、指定数量以上の危険物の貯蔵となります。

指定数量以上の貯蔵・取扱いは甲種または乙種4類危険物取扱者を任命し、危険物の取扱いに関し保安監督させる必要があります。

※詳細については、所轄の消防本部または消防署長にご確認ください。

■ 消防法区分・特化則対象一覧

製品名		入目(kg) ①		消防法関係		特化則対象
		通常	小型	危険物区分	液比重 ②	
コスミック・RIM S100	主剤(A剤)	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	硬化剤(B剤)	175	16	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	スプレートナー	15	1.4	第4類第4石油類	1.0	
コスミック・RIM S200 (N)	主剤(A剤)	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	硬化剤(B剤)	175	16	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	スプレートナー	15	1.4	第4類第4石油類	1.0	
コスミック・RIM S150	主剤(A剤)	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	硬化剤(B剤)	182	16	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	スプレートナー	8	－	第4類第4石油類	1.3	
コスミック・RIM S500	A剤	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	B剤	175	16	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	RIM トナー	15	1.4	第4類第4石油類	1.0	
コスミック・RIM A-50R	主剤(A剤)	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	硬化剤(B剤)	175	16	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	専用トナー	15	1.4	第4類第4石油類	－	
エバーコートZero-1H		18	－	第4類第3石油類 非水溶性	1.3	対象外
エバーコートZero-1H 立上り用		18	8	指定可燃物	1.3	対象外
エバーコートZero-1H 中粘度		18	－	第4類第3石油類 非水溶性	1.3	対象外
US環境キシャク剤		12	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.8	対象外
コスミック・プライマー P		16	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	対象外
コスミック・プライマー S		16	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	室内工事は対象(エチルベンゼン)
コスミック・プライマー 200	主剤	6	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	対象外
	硬化剤	6	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
コスミック・プライマー E		14	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.0	対象外
コスミック・エコプライマー	主剤	8	－	非危険物	1.1	対象外
	硬化剤	8	－	非危険物	1.0	
FUプライマー	主剤	4	－	第4類第1石油類 非水溶性	－	室内工事は対象(スチレン)
	硬化剤	4	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
コスミック・プライマー DE	主剤	2	－	非危険物	1.0	対象外
	硬化剤	2	－	非危険物	1.0	
	粉材	6	－	非危険物	0.8	
ダイナベース		20	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.6	室内工事は対象(エチルベンゼン)
DSトップ・ゼロ (旧名称：コスミック・ゼロトップ)	主剤	6	－	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
	硬化剤	9	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
	主剤	4	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	
コスミック・トップS	硬化剤	12	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.2	室内工事は対象(エチルベンゼン)
	主剤	7	－	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	室内工事は対象(エチルベンゼン)
コスミック・トップP	硬化剤	7	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.1	
	主剤	6	－	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
SQトップ・ゼロ	硬化剤	9	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
	主剤	6	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	室内工事は対象(エチルベンゼン)
コスミック・トップUV	硬化剤	8	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.1	
ASトップ・ゼロ (旧名称：コスミック・ゼロトップAS)	主剤	6	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.0	対象外
	硬化剤	9	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
	主剤	4	－	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
フッ素スーパートップ・ゼロ (旧名称：コスミック・フッ素ゼロトップ)	硬化剤	6	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.1	
	主剤	15	－	非危険物	1.1	対象外
オートップ・ワン (旧名称：コスミック・エコトップONE)		15	－	非危険物	1.1	対象外
HGコート (旧名称：コスミック・MKコート)		20	－	非危険物	1.4	対象外
W-1 (旧名称：コスミック・プライマー 500)	主剤	10	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	室内工事は対象(エチルベンゼン)
	硬化剤	10	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
通気緩衝シート、メッシュ、テープ類		消防法の危険物に該当しません。				

※上記の数値は予告なく変更する場合がございます。必ず最新版のSDSをご確認ください。

製品情報

ウレタン塗膜防水材
プライマー／接着剤
トップコート
通気緩衝シート／テープ
クロス／金物／その他
シーリング材
脱気装置／改修ドレン
下地処理材／目地処理材
使用材料一覧

製品情報

ウレタン塗膜防水材

■ 超速硬化ウレタン防水材

コスミック・RIM S100 JIS A 6021 F☆☆☆☆ NUK-F06091

概要：2成分形超速硬化ウレタン防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形
入 目：[ドラム] 375kg／セット（主剤200kg／ドラム、硬化剤175kg／ドラム）
[小分け] 34kg／セット（主剤18kg／缶、硬化剤16kg／缶）
トナー：スプレートナー（15kg／缶、1.4kg／缶）



外観	主 剤：無色～淡黄色液体 硬化剤：褐色液体	
硬化物比重	1.0	
接触可能時間	5～15℃	1～3分 ^{※1}
	15～25℃	1～3分 ^{※1}
	25～35℃	1～3分 ^{※1}
乾燥時間 ^{※2}	5～15℃	60分
	15～25℃	30分
	25～35℃	30分
接着可能時間 ^{※3}	5～15℃	8時間
	15～25℃	6時間
	25～35℃	6時間

※1 専用吹付け機械塗工となります。
※2 トップコートが塗布可能となる目安の時間です。
※3 吹重ね可能な時間、またはトップコートが接着可能な時間です。

コスミック・RIM S500

概要：2成分形超速硬化ウレタン防水材
入 目：[ドラム] 375kg／セット（主剤200kg／ドラム、硬化剤175kg／ドラム）
[小分け] 34kg／セット（主剤18kg／缶、硬化剤16kg／缶）
トナー：スプレートナー（15kg／缶、1.4kg／缶）



外観	主 剤：無色～淡黄色液体 硬化剤：褐色液体	
硬化物比重	1.0	
使用可能時間	5～15℃	1～3分 ^{※1}
	15～25℃	1～3分 ^{※1}
	25～35℃	1～3分 ^{※1}
乾燥時間 ^{※2}	5～15℃	60分
	15～25℃	30分
	25～35℃	30分
接着可能時間 ^{※3}	5～15℃	8時間
	15～25℃	6時間
	25～35℃	6時間

※1 専用吹付け機械塗工となります。
※2 トップコートが塗布可能となる目安の時間です。
※3 吹重ね可能な時間、またはトップコートが接着可能な時間です。

コスミック・RIM S200 (N) JIS A 6021 F☆☆☆☆ NUK-F06092

概要：2成分形超速硬化ウレタン防水材 屋根用ウレタンゴム系高伸長形・高強度形
入 目：[ドラム] 375kg／セット（主剤200kg／ドラム、硬化剤175kg／ドラム）
[小分け] 34kg／セット（主剤18kg／缶、硬化剤16kg／缶）
トナー：スプレートナー（15kg／缶、1.4kg／缶）



外観	主 剤：無色～淡黄色液体 硬化剤：褐色液体	
硬化物比重	1.0	
使用可能時間	5～15℃	1～3分 ^{※1}
	15～25℃	1～3分 ^{※1}
	25～35℃	1～3分 ^{※1}
乾燥時間 ^{※2}	5～15℃	60分
	15～25℃	30分
	25～35℃	30分
接着可能時間 ^{※3}	5～15℃	8時間
	15～25℃	6時間
	25～35℃	6時間

※1 専用吹付け機械塗工となります。
※2 トップコートが塗布可能となる目安の時間です。
※3 吹重ね可能な時間、またはトップコートが接着可能な時間です。

コスミック・RIM A-50R F☆☆☆☆ NUK-211200

概要：2成分形超速硬化ポリウレア 高強度ポリウレア樹脂
入 目：[ドラム] 375kg／セット（主剤200kg／ドラム、硬化剤175kg／ドラム）
[小分け] 34kg／セット（主剤18kg：硬化剤16kg）
トナー：コスミック・RIM A-50Rトナー（15kg・1.4kg／缶）



外観	主 剤：無色～淡黄色液体 硬化剤：褐色液体	
硬化物比重	1.0	
使用可能時間	5～15℃	数秒 ^{※1}
	15～25℃	数秒 ^{※1}
	25～35℃	数秒 ^{※1}
乾燥時間 ^{※2}	5～15℃	60分
	15～25℃	30分
	25～35℃	30分
接着可能時間 ^{※3}	5～15℃	8時間
	15～25℃	6時間
	25～35℃	6時間

※1 専用吹付け機械塗工となります。
※2 トップコートが塗布可能となる目安の時間です。
※3 吹重ね可能な時間、またはトップコートが接着可能な時間です。

コスミック・RIM S150 JIS A 6021 F☆☆☆☆ NUK-F10585

概要：2成分形超速硬化ウレタン防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形
入 目：[ドラム] 392kg／セット（主剤210kg／ドラム、硬化剤182kg／ドラム）
[小分け] 36kg／セット（主剤18kg／缶、硬化剤18kg／缶）
トナー：SトナーS（8kg／缶）



外観	主 剤：無色～淡黄色液体 硬化剤：褐色液体	
硬化物比重	1.0	
使用可能時間	5～15℃	1～3分 ^{※1}
	15～25℃	1～3分 ^{※1}
	25～35℃	1～3分 ^{※1}
乾燥時間 ^{※2}	5～15℃	60分
	15～25℃	30分
	25～35℃	30分
接着可能時間 ^{※3}	5～15℃	8時間
	15～25℃	6時間
	25～35℃	6時間

※1 専用吹付け機械塗工となります。
※2 トップコートが塗布可能となる目安の時間です。
※3 吹重ね可能な時間、またはトップコートが接着可能な時間です。

■ 手塗りウレタン塗膜防水材

エバーコートZero-1H

F☆☆☆☆ NUK-F12708

概要：特定化学物質無配合
1成分形ウレタン塗膜防水材
入 目：18kg／缶



※現場状況により、各自で粘度調整を行いたい場合、エバーコートZero-1HとエバーコートZero-1H 立上り用を配合して使用してください。
※硬化促進剤は、エバーコートZero-1Hシリーズ専用のZero-1 専用促進剤をご使用ください。
※ご不明な点がございましたら、弊社担当営業までお問合せください。

エバーコートZero-1H 立上り用

F☆☆☆☆ NUK-F12709

概要：特定化学物質無配合
1成分形ウレタン塗膜防水材
入 目：18kg／缶・8kg／缶



エバーコートZero-1H 中粘度

F☆☆☆☆ NUK-F12734

概要：特定化学物質無配合
1成分形ウレタン塗膜防水材
入 目：18kg／缶



プライマー

コスミック・プライマーS 溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F06087

概要：1成分形ウレタン樹脂プライマー
用途：一般用プライマー
入 目：16kg／缶
塗布量：0.15kg～／㎡



使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	2時間
	15～25℃	1時間
	25～35℃	0.5時間
接着可能時間	5～15℃	1日以内
	15～25℃	1日以内
	25～35℃	1日以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・プライマーEP 溶剤系

概要：2成分形エポキシ樹脂プライマー
用途：コンクリート・モルタル及び金属下地用プライマー
入 目：12kg／セット（主剤：6kg 硬化剤：6kg）
塗布量：0.15kg～／㎡



使用可能時間	5～15℃	3時間
	15～25℃	3時間
	25～35℃	2時間
乾燥時間	5～15℃	4時間
	15～25℃	2時間
	25～35℃	1時間
接着可能時間	5～15℃	2日以内
	15～25℃	2日以内
	25～35℃	2日以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します。 セメントを25%配合することによりコート可能ですが、乾燥時間は1.5倍程度になります。

コスミック・プライマーEP駐車場用 溶剤系

概要：2成分形エポキシ樹脂プライマー
用途：駐車場用プライマー
入 目：12kg／セット（主剤：6kg 硬化剤：6kg）
塗布量：0.15kg～／㎡



使用可能時間	5～15℃	3時間
	15～25℃	3時間
	25～35℃	2時間
乾燥時間	5～15℃	4時間
	15～25℃	2時間
	25～35℃	1時間
接着可能時間	5～15℃	2日以内
	15～25℃	2日以内
	25～35℃	2日以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します。 セメントを25%配合することによりコート可能ですが、乾燥時間は1.5倍程度になります。

コスミック・プライマーU 弱溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F10557

概要：1成分形ウレタン樹脂プライマー
用途：コンクリート・モルタル下地用プライマー
入 目：16kg／缶
塗布量：0.15kg～／㎡



使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	3時間
	15～25℃	1.5時間
	25～35℃	1時間
接着可能時間	5～15℃	2日以内
	15～25℃	2日以内
	25～35℃	2日以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・エコプライマー 水系 F☆☆☆☆ NUK-F08314

概要：2成分形エポキシ樹脂プライマー
用途：コンクリート・モルタル及びゴムシート下地用プライマー
入 目：16kg／缶（主剤：8kg 硬化剤：8kg）
塗布量：0.15kg～／㎡



使用可能時間	5～15℃	6時間
	15～25℃	4時間
	25～35℃	3時間
乾燥時間	5～15℃	3時間
	15～25℃	1.5時間
	25～35℃	1時間
接着可能時間	5～15℃	2日以内
	15～25℃	2日以内
	25～35℃	2日以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・プライマー200 溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F10588

概要：2成分形ウレタン樹脂プライマー
用途：ウレタン下地用プライマー
入 目：12kg／セット（主剤：6kg 硬化剤：6kg）
塗布量：0.1kg～／㎡



使用可能時間	5～15℃	4時間
	15～25℃	2時間
	25～35℃	1時間
乾燥時間	5～15℃	2時間
	15～25℃	1時間
	25～35℃	0.5時間
接着可能時間	5～15℃	12時間以内
	15～25℃	12時間以内
	25～35℃	12時間以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・プライマー300 溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F10591

概要：1成分形ウレタン樹脂プライマー
用途：ウレタン下地用プライマー
入 目：15kg／缶
塗布量：0.1kg／㎡



使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	2時間
	15～25℃	1.5時間
	25～35℃	1時間
接着可能時間	5～15℃	12時間以内
	15～25℃	12時間以内
	25～35℃	12時間以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・プライマーE 弱溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F09440

概要：1成分形ウレタン樹脂プライマー
用途：ウレタン及び塩化ビニル樹脂下地用プライマー
入 目：14kg／缶
塗布量：0.1kg～／㎡



使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	4時間
	15～25℃	2時間
	25～35℃	1.5時間
接着可能時間	5～15℃	1日以内
	15～25℃	1日以内
	25～35℃	12時間以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

FUプライマー

溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F07253

概要：2成分形ウレタンポリエステル樹脂プライマー
用途：ポリエステル樹脂トップコート下地用プライマー
入目：8kg／セット（主剤：4kg 硬化剤：4kg）
塗布量：0.15kg ～／㎡



使用可能時間	5 ～ 15℃	1.5 時間
	15 ～ 25℃	1 時間
	25 ～ 35℃	0.5 時間
乾燥時間	5 ～ 15℃	1 時間
	15 ～ 25℃	1 時間
	25 ～ 35℃	0.5 時間
接着可能時間	5 ～ 15℃	6 時間
	15 ～ 25℃	4 時間
	25 ～ 35℃	2 時間
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

ダイナベース

溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F07268

概要：1成分形アスファルト活性剤
用途：砂付きアスファルト下地活性剤（CA マット G、CA マット SB）
入目：20kg／缶
塗布量：0.8～1.2kg／㎡



使用可能時間	5 ～ 15℃	—
	15 ～ 25℃	—
	25 ～ 35℃	—
乾燥時間	5 ～ 15℃	48 時間
	15 ～ 25℃	24 時間
	25 ～ 35℃	24 時間

■下地への適合一覧

	コスミック・ プライマー S (溶剤系)	コスミック・ プライマー EP (溶剤系)	コスミック・ プライマー U (弱溶剤系)	コスミック・ エコプライマー (水系)	コスミック・ プライマー 200 (溶剤系)	コスミック・ プライマー 300 (溶剤系)	コスミック・ プライマー E (弱溶剤系)	FU プライマー (溶剤系)	ダイナベース (溶剤系)
コンクリート／モルタル	○	○	○	○	×	×	×	×	×
金 属	鉄	×	○	×	×	×	×	×	×
	ステンレス	×	○	×	×	×	×	×	×
	アルミニウム	×	○	×	×	×	×	×	×
	鉛	×	○	×	×	×	×	×	×
	亜鉛	×	○	×	×	×	×	×	×
	銅	×	×	×	×	×	×	×	×
	熔融亜鉛メッキ銅版	×	△	×	×	×	×	×	×
	焼付けフッ素銅板	×	×	×	×	×	×	×	×
ウレタン	×	×	×	×	○	○	○	×	×
塩化ビニルシート／VP 管	×	×	×	×	×	×	○	×	×
ゴムシート	×	×	×	●	×	×	×	×	×
FRP	×	△	×	×	×	×	×	●	×
砂付きアスファルト	×	×	×	×	×	×	×	×	○

×（注）：脱気筒やドレン等、部分的にウレタン塗膜防水層が掛かる範囲内に限って可。
△：下地の目荒し処理の後、接着試験を行なってください。
●：事前に接着試験を行なってください。
○：可。ただし下地の状態が健全であること。（P.29 ～ 30 の防水施工条件を参照してください。）
※コスミック・プライマー EP 駐車場用は駐車場防水専用です。

トップコート

SQトップ・ゼロ

弱溶剤系

F☆☆☆☆ NUK-F231264

概要: 2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート
速乾タイプ

入 目: 15kg/セット (主剤: 6kg 硬化剤: 9kg)
塗布量: 0.2kg/㎡



色バリエーション		
一般色 (受注生産品)	No.12 グレー	
	No.70 ライトグレー	
	No.44 SP グリーン	
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.100 ライトグレー	
	高反射色 No.200 ミントグリーン	

※一般色は艶消しタイプと艶有りタイプがあります。
※一般色は特注色対応可能。

使用可能時間	5 ~ 15℃	4 時間
	15 ~ 25℃	3 時間
	25 ~ 35℃	2 時間
乾燥時間	5 ~ 15℃	6 時間
	15 ~ 25℃	4 時間
	25 ~ 35℃	2 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	7 日間
	15 ~ 25℃	7 日間
	25 ~ 35℃	7 日間
接着可能時間を超えた場合の処理		コスミック・プライマー E を塗布します。

オートップ・ワン

水系

F☆☆☆☆ NUK-F17980

旧名称: コスミック・エコトップ ONE

概要: 1成分形 アクリルウレタン樹脂トップコート

入 目: 15kg/缶

塗布量: 0.3kg (0.15kg×2回塗り) /㎡



色バリエーション		
一般色 (受注生産品)	グレー	
	グリーン	
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.100 ライトグレー	
	高反射色 No.200 ミントグリーン	

※一般色は艶有りタイプのみです。CM 骨材を添加することで、艶消し調仕上がりになります。
添加量は、オートップ・ワン 1 缶に対し 1 袋 (0.5 kg) です。

使用可能時間	5 ~ 15℃	—
	15 ~ 25℃	—
	25 ~ 35℃	—
乾燥時間	5 ~ 15℃	16 時間
	15 ~ 25℃	8 時間
	25 ~ 35℃	5 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	7 日間
	15 ~ 25℃	7 日間
	25 ~ 35℃	7 日間
接着可能時間を超えた場合の処理		コスミック・プライマー E を塗布します。

ASトップ・ゼロ

弱溶剤系

F☆☆☆☆ NUK-F12706

旧名称: コスミック・ゼロトップ AS

概要: 2成分形アクリルシリコン樹脂トップコート

入 目: 15kg/セット (主剤: 6kg 硬化剤: 9kg)

塗布量: 0.2kg/㎡



色バリエーション		
一般色 (受注生産品)	No.12 グレー	
	No.70 ライトグレー	
	No.44 SP グリーン	
	No.15 グリーン	
	No.17 タンブラウン	
	No.96 ブラウン	
高反射色 (受注生産品)	No.97 ライトブラウン	
	高反射色 No.100 ライトグレー	
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.200 ミントグリーン	

※一般色は艶有りタイプと艶消しタイプがあります。
※一般色は特注色対応可能。

使用可能時間	5 ~ 15℃	8 時間
	15 ~ 25℃	5 時間
	25 ~ 35℃	3 時間
乾燥時間	5 ~ 15℃	16 時間
	15 ~ 25℃	8 時間
	25 ~ 35℃	5 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	7 日間
	15 ~ 25℃	7 日間
	25 ~ 35℃	7 日間
接着可能時間を超えた場合の処理		コスミック・プライマー E を塗布します。

HGコート

水系

F☆☆☆☆ NUK-F06070

旧名称: コスミック・MKコート

概要: 1成分形無機質調アクリルシリコン樹脂
トップコート厚塗り高耐久保護仕上げ

入 目: 20kg/缶

塗布量: [平 場] コスミック・プライマー500

0.15kg/珪砂 0.8kg/

コスミック・MKコート

1.2kg (2回塗り)

[立上り] コスミック・プライマー500

0.15kg/

コスミック・MKコート

1.0kg (2回塗り)



色バリエーション		
一般色 (常備品)	シルバーグレー	
	グリーン	
一般色 (受注生産品)	レッド	
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.100 ライトグレー	
	高反射色 No.200 ミントグリーン	

使用可能時間	5 ~ 15℃	制限なし
	15 ~ 25℃	制限なし
	25 ~ 35℃	制限なし
乾燥時間	5 ~ 15℃	3 時間
	15 ~ 25℃	2 時間
	25 ~ 35℃	1 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	—
	15 ~ 25℃	—
	25 ~ 35℃	—
接着可能時間を超えた場合の処理		リコート可能

フッ素スーパートップ・ゼロ

弱溶剤系

F☆☆☆☆ NUK-F12707

旧名称: コスミック・フッ素ゼロトップ

概要: 2成分形フッ素樹脂トップコート

入 目: 10kg/セット (主剤: 4kg 硬化剤: 6kg)

塗布量: 0.2kg/㎡



色バリエーション		
一般色 (受注生産品)	No.12 グレー	
	No.70 ライトグレー	
	No.44 SP グリーン	
	No.15 グリーン	
	No.17 タンブラウン	
	No.96 ブラウン	
高反射色 (受注生産品)	No.97 ライトブラウン	
	高反射色 No.100 ライトグレー	
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.200 ミントグリーン	

※一般色は艶有りタイプのみがあります。
※一般色は特注色対応可能。

使用可能時間	5 ~ 15℃	8 時間
	15 ~ 25℃	5 時間
	25 ~ 35℃	3 時間
乾燥時間	5 ~ 15℃	16 時間
	15 ~ 25℃	8 時間
	25 ~ 35℃	5 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	7 日間
	15 ~ 25℃	7 日間
	25 ~ 35℃	7 日間
接着可能時間を超えた場合の処理		コスミック・プライマー E を塗布します。

HGコート用プライマー W-1

W-1

溶剤系

F☆☆☆☆ NUK-F06076

旧名称: コスミック・プライマー500

概要: 2成分形エポキシ樹脂プライマー

用 途: HGコート用プライマー

入 目: 20kg/セット

(主剤: 10kg 硬化剤: 10kg)

塗布量: 0.15kg/㎡



色バリエーション		
一般色 (常備品)	シルバーグレー	
	グリーン	
一般色 (受注生産品)	レッド	
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.100 ライトグレー	
	高反射色 No.200 ミントグリーン	

使用可能時間	5 ~ 15℃	3 時間
	15 ~ 25℃	1.5 時間
	25 ~ 35℃	45 分
乾燥時間	5 ~ 15℃	5 時間
	15 ~ 25℃	2 時間
	25 ~ 35℃	1 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	12 時間
	15 ~ 25℃	12 時間
	25 ~ 35℃	12 時間
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

トップコート関連製品

適用トップコート	製品名(入目)	粒径(平均粒子径)	仕上材の添加量	塗工方法
DSトップ・ゼロ ASトップ・ゼロ フッ素スーパートップ・ゼロ SQトップ・ゼロ エクセルトップ オートップ・ワン	粗面仕上材 (0.5kg／袋／箱)	30～300μm	トップコート1セットに対して 粗面仕上材1袋 〈フッ素スーパートップ・ゼロの場合〉 トップコートに対して重量比約3%	ローラー
	エストップ#20 [*] (1kg／袋)	0.2mm	トップコートに対して重量比約2%	ローラー
	エストップ#40 [*] (1kg／袋)	0.4mm	トップコートに対して重量比約2%	リシンガン (吹付け)

※オートップ・ワンでの使用は不可

〈トップコートの仕上りについて〉

- ・トップコートを小分けする場合は、必ずプレミキシングを行ってください。
- ・既設防水が外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
- ・高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーフバルコニーなどの居室付近での塗布は避けてください。
- ・粗面仕上げにする場合は「粗面仕上材」を添加してください。ただしいずれも防滑性能を保証するもではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- ・粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- ・現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
- ・各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
- ・各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。仕上りに特段のご要望がある場合は事前にご相談ください。

駐車場用粗面仕上げ骨材

PK骨材・PK骨材（G粒）

概要：駐車場工法用骨材

材質：コーティング骨材

荷姿：25kg／袋

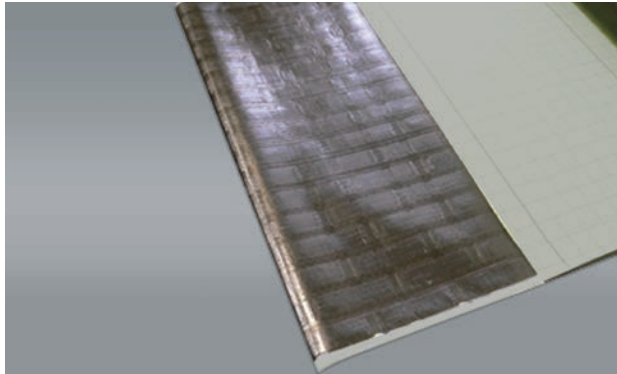
サイズ：PK骨材 3号
 PK骨材（G粒） 4号・5号の混合



通 気 緩 衝 シ ー ト

CA マット G

通気緩衝シート、機械的固定用シートのどちらにも対応できる全く新しいタイプの複合防水用下張りシートです。表層の特殊フィルムとベースとなる改質アスファルト層には十分な防水性能があり、降雨にも影響を受けにくく、施工中の雨養生が大幅に簡便化しました。



概 要：通気緩衝工法用自着層付改質アスファルトシート
厚 み：接着部 1.5mm 非接着部 1.0mm
荷 姿：幅 1.04m×長さ 15.7m（約 19kg）

特 長

①ウレタン塗膜防水工法の性能アップ

CA マット G は、シート構成材に改質アスファルトを採用し、単独でも十分な防水性能を持たせました。各種ウレタン塗膜防水材との組み合わせにより、複合防水工法としてウレタン塗膜防水工法の性能を飛躍的に向上させることが可能です。

②優れた下地追従性

CA マット G は、表層のガラス補強層により優れた寸法安定性を発揮します。ベースとなる改質アスファルト層との組み合わせにより優れた下地追従性を実現します。

③通気システムによるフクレ緩和

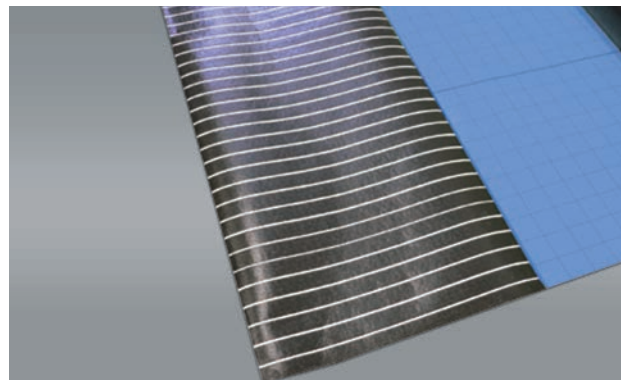
CA マット G は裏面自着層をブロック状にコーティングしてあります。防水下地から発生する水蒸気は、シート内を通して脱気筒から排出される為、フクレにくい構造となっています。

④あらゆる下地に対応可能です

裏面にコーティングした自着層は、各種プライマーとの組み合わせによりあらゆる防水下地に対応可能です。また、既存下地の接着強度、耐久性の低下が見られる場合は、アンカーによる機械的固定工法として優れた性能を発揮します。通気緩衝工法、機械的固定工法として、各種塗膜防水、シート防水、FRP 防水等の既存下地も撤去不要です。

CA マット SB／CA マット SB 機械固定用

ポリエステル不織布と粘着ブチルから構成される通気緩衝工法専用シートです。表層の特殊フィルムは十分な撥水効果があり、施工中の降雨の影響を受けにくくなります。



概 要：通気緩衝工法用自着層付粘着ブチルゴムシート
厚 み：[CA マット SB] 接着部 1.05mm 非接着部 0.7mm
[CA マット SB 機械固定用] 接着部 1.2mm 非接着部 0.87mm
荷 姿：幅 1.0m×長さ 15m（約 13kg）

特 長

①優れた『通気』『緩衝』性能

CA マット SB は、裏面のストライプ状の粘着ブチル層とポリエステル不織布の複合通気システムにより優れた通気性能を有します。防水下地から発生する蒸気の拡散、脱気を円滑に行う為、フクレにくい構造となっています。また、寸法安定性に富んだガラスクロス補強層と柔軟な不織布との組み合わせにより優れた下地追従性（緩衝性能）を発揮します。

②各種防水下地への施工が可能です

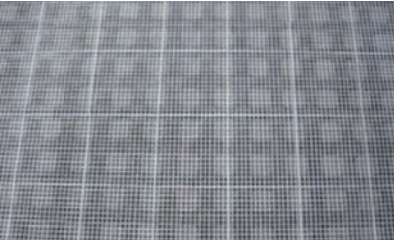
裏面のストライプ粘着ブチル自着層は、各種プライマーとの組み合わせにより、各種防水下地への施工が可能です。また、柔軟な不織布により、なじみ良く下地面に接着します。

③優れた施工性

ポリエステル不織布をベースにしている為、軽量で運搬が容易に行えます。また、表層の特殊フィルムは十分な撥水効果があり、施工中の降雨にも影響を受けにくく、施工効率が大幅にアップしました。

CM通気クロス

アルミ箔に規則的あいた穴の部分でウレタン防水材が下地に密着し、格子状のアルミ箔の部分で通気させる粘着補強布です。
[非破壊膜厚検査対応]

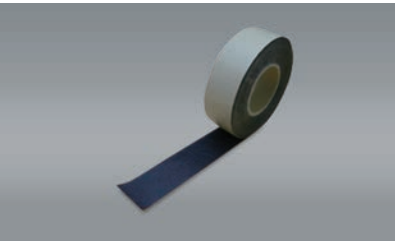


概要：穴あきアルミ箔ラミネートポリエステルクロス
荷姿：幅1.0m×長さ50m（約6kg）

テープ

CAジョイントテープ

概要：CAマットGジョイント用
材質：ブチルゴム
荷姿：幅50mm×長さ25m／巻



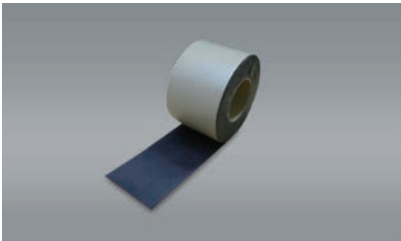
ジョイントテープTM

概要：CAマットG・SBジョイント用
材質：PETフィルム付ガラスメッシュ
荷姿：幅100mm×長さ50m／巻



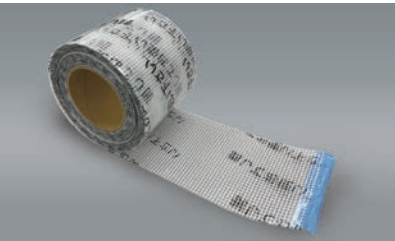
CA末端テープ

概要：シート端末用、金属部絶縁用
材質：ブチルゴム
荷姿：幅100mm×長さ25m／巻



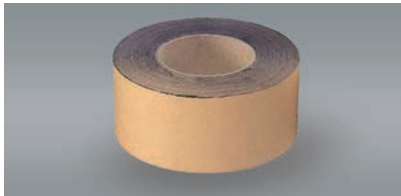
DFメッシュテープ

概要：シート端末用、各種補強用
材質：ガラスメッシュ
荷姿：幅100mm×長さ50m／巻



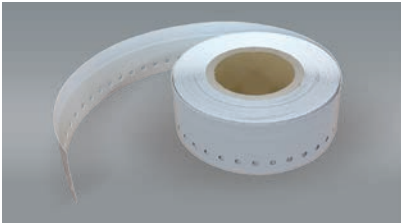
FJテープ

概要：耐溶剤性絶縁テープ
材質：ブチルゴム・ポリエステル不織布
荷姿：幅50mm×20m／巻 幅150mm×20m／巻
幅70mm×20m／巻 幅200mm×20m／巻
幅100mm×20m／巻



キレールテープ

概要：水切りの無いバラベットアゴ部や、施工の省力化がはかれる水切り用テープ
材質：ストーンペーパー
荷姿：幅55mm×30m／巻



■通気緩衝シートへの適合一覧

テープ \ シート	CA マット G			CA マット SB CA マット SB 機械固定用		
	長手ジョイント	短手ジョイント	シート端末処理	長手ジョイント	短手ジョイント	シート端末処理
ジョイントテープ TM	○	○	×	○	○	×
CA メッシュテープ	○	×	○	×	×	○
CA ジョイントテープ	○	○	×	×	×	×
CA 末端テープ	×	×	○	×	×	○

金物／その他

T ルーフアンカー

概要：機械的固定工法用アンカーピン
材質：ステンレス
荷姿：300本／箱
寸法：40mm 70mm
穿孔径：6.4～6.5mm
アンカー埋め込み深さ：24mm以上



ハードエッジドライブ HDF

概要：機械的固定工法用ネジ
寸法：65本／パック（45mm） 45本／パック（60mm）
40本／パック（75mm） 25本／パック（90mm）
23本／パック（100mm）
100本／箱（120mm） 100本／箱（150mm）
100本／箱（180mm）
穿孔径：5.3mm
アンカー埋め込み深さ：40mm以上



※プラグは必要ありません。

T ルーフワッシャー

概要：ハードエッジドライブ HDF 用ワッシャー
荷姿：300枚／袋
寸法：径30mm



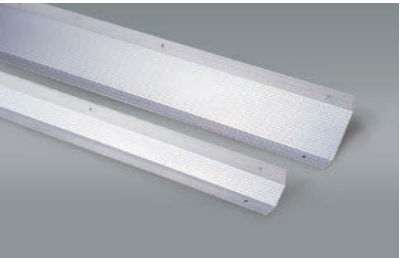
T ルーフスリーブ

概要：固定用金物
材質：アルミニウム
荷姿：300個
寸法：長さ 5mm・20mm・25mm・30mm・35mm・40mm
外径 10mm
内径 8mm



ランスロックキャントN

概要：通気緩衝工法用・機械的固定工法用
材質：アルミニウム
寸法：厚さ1.3mm 長さ2.0m
幅30×40×30mm
30×100×30mm
固定用アンカー穴：両端から50mmのところに
2ヶ所及び380mmピッチで
4ヶ所／合計6ヶ所×上下2ヶ所 径6.5mm



T ルーフプレートA型

概要：機械的固定工法用シート端末補強金物
材質：アルミニウム
寸法：厚さ3.3mm 長さ2.0m 幅30mm
固定用アンカー穴：両端から50mmのところに
2ヶ所及び380mmピッチで4ヶ所／合計6ヶ所 径6.5mm



アルミサスアンカー

概要：ランスロックキャントN、
T ルーフプレートA型用固定アンカーピン
荷姿：100本／箱
寸法：26mm・40mm・70mm
穿孔径：5.4mm
アンカー埋め込み深さ：20mm以上



CAパッチテープ

概要：T ルーフアンカー用シール
材質：ブチルゴム
荷姿：50Φ×370枚／巻



シーリング材

1成分形ポリウレタン系シーリング材 速乾タイプ

シーカフレックス®11FC Quick

入 目：320ml×10本／箱（2箱PP掛け）

速いタックフリータイムを有します。

（40分／23℃）

通気緩衝シート端部処理、雨仕舞、防水下地処理、クラック補修、ドレン廻り、コーナー目地に適用できます。

押出し性（秒）	23℃	3 秒
タックフリー（時間）	23℃	40 分
密度（g／ml）		1.1
色		グレー



脱 気 装 置

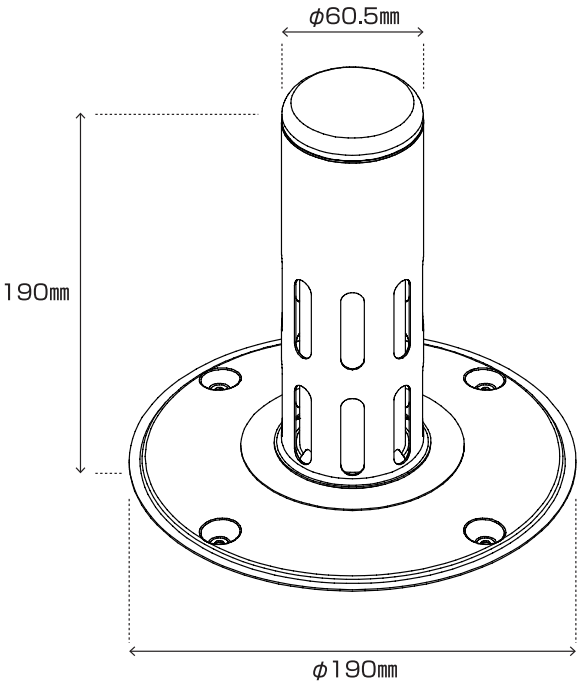
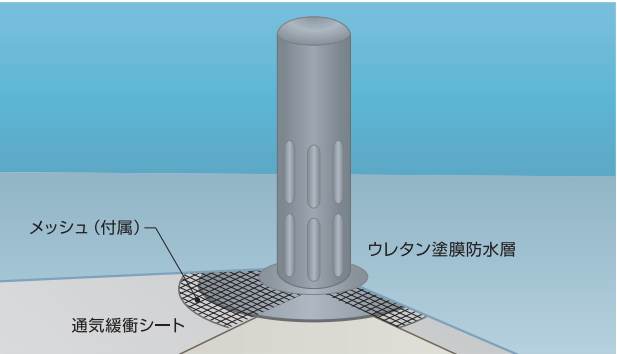
ステンレスベントN

概 要：床面設置用脱着式脱気装置

材 質：ステンレス

荷 姿：2個／箱

設置割合：50～100㎡に1箇所



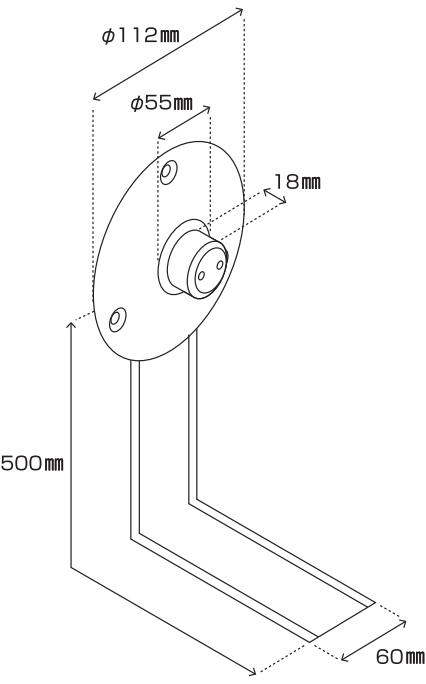
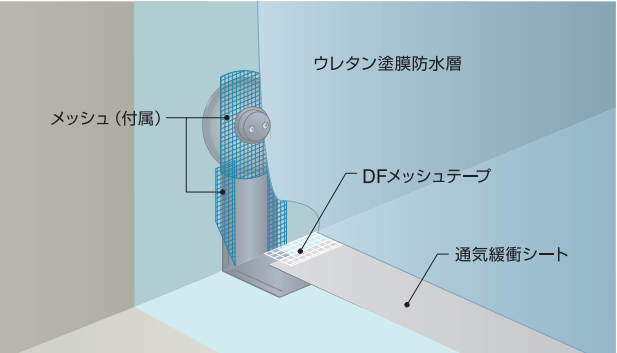
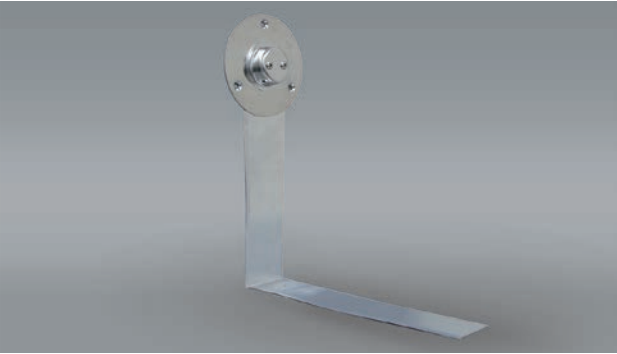
ウォールベント

概 要：立上り設置用脱気装置

材 質：ステンレス（本体）、アルミニウム（プレート）

荷 姿：5個／箱

設置割合：50㎡に1箇所

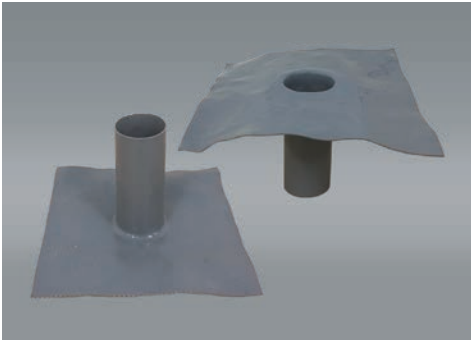


改 修 ド レ ン

LF改修ドレンU (非鉛製)

- 改修用二重ドレンです。鉛を使用していません。鉛の代わりに伸縮自在のアルミエクスバンドメタルをウレタンゴムで包んだシート素材を使用しています。環境に優しい新しい改修用ドレンです。
- ウレタンゴムの中に鉛製改修ドレンアルミエクスバンドメタルを入れることで、鉛と同様の形状保持性を確保しています。重さは鉛製改修ドレンの30%程度で約800gと非常に軽く、取り扱いが容易です。
- 優れた接着性：ウレタンゴム製の為、ウレタン防水層と優れた接着性があり、一体化します。
- 改修ドレンNよりも柔らかい：レタンゴム+エクスバンドメタルの組み合わせで出来ているシート部は、鉛よりも下地に追従しやすく、ハンマーを使用しなくても転圧ローラーで下地に馴染みます。
- ヨコ型ジャバラホースの先端にはVカットが施してあり、ホースが縦樋に入りやすくなっています。

LF改修ドレンU タテ型



品名	外径 (mm)	内径 (mm)	筒長さ (mm)	ツバ部 [ウレタンシート] (mm)
タテ型 40φ用	φ 35	φ 30	180	300×300
タテ型 50φ用	φ 49	φ 44		
タテ型 65φ用	φ 64	φ 59		
タテ型 75φ用	φ 74	φ 69		
タテ型 90φ用	φ 89	φ 84		
タテ型 100φ用	φ 99	φ 94		
タテ型 125φ用	φ 120	φ 115		
タテ型 130φ用	φ 129	φ 124		
タテ型 150φ用	φ 140	φ 135		

LF改修ドレンU ヨコ型



品名	外径 (mm)	内径 (mm)	ホース 長さ (mm)	ツバ部 [ウレタンシート] (mm)
ヨコ型 40φ用	φ 39.8	φ 29	400	300×300
ヨコ型 50φ用	φ 45.9	φ 35	400	
ヨコ型 60φ用	φ 53.5	φ 41	500	
ヨコ型 70φ用	φ 65	φ 52	700	400×400
ヨコ型 80φ用	φ 72.6	φ 61		
ヨコ型 90φ用	φ 85.8	φ 74		
ヨコ型 100φ用	φ 98.6	φ 86		
ヨコ型 120φ用	φ 112	φ 100		
ヨコ型 130φ用	φ125.3	φ 113		
ヨコ型 140φ用	φ137.2	φ 126		

構成素材



材 質 (シート部) |
アルミエクスバンドメタル入り
ウレタンゴムシート

材 質 (パイプ部) |
タテ型＝ウレタンゴム
ヨコ型＝塩ビ製ジャバラホース

LF改修ドレン用ドレンキャップ

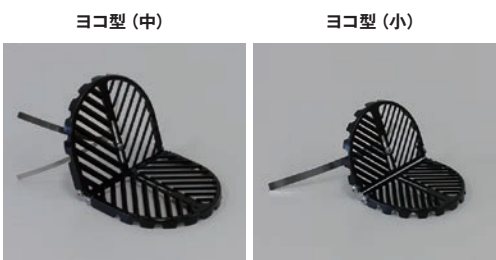
LFドレンキャップ タテ型



商品種別	適用配管	サイズ (mm)	入目
LFドレンキャップ タテ型 (大)	60φ～140φ配管	190φ×155	2ヶ入り
LFドレンキャップ タテ型 (中)	50φ～100φ配管	130φ×125	2ヶ入り
LFドレンキャップ タテ型 (小)	40φ～80φ配管	105φ×35	2ヶ入り

材 質 | アルミダイキャスト
色 調 | ブラック／ライトグレー

LFドレンキャップ ヨコ型



商品種別	適用配管	サイズ (mm)	入目
LFドレンキャップ ヨコ型 (中)	60φ～140φ配管	150×136	2ヶ入り
LFドレンキャップ ヨコ型 (小)	40φ～80φ配管	110×91	2ヶ入り

材 質 | アルミダイキャスト
色 調 | ブラック／ライトグレー

下 地 処 理 材 ／ 目 地 処 理 材

ダブルテックスNEO

下地調整系 エポキシ系ポリマーセメント

- エポキシ系だから最も高い接着力を保持し、多くの下地に対応できます。
- 鉄部の防錆処理にも使用でき、鉄部と取り合う防水面の下地処理にも使えます。
- 優れた吸水防止効果で、仮防水材としても使用可能です。



入 目 | 20kg／缶
(主材14kg：A液5kg：B液1kg)

標準使用工具	ローラー、刷毛、左官ゴテ
塗 厚	ノロビキ 0.5～1.0mm
調合方法	硬化液A 5.0kg＋硬化液B 1.0kg ＋主材14kg＋水0～0.8ℓ 調合した材料は1時間以内で使用してください。

Dワン・カチオン

下地調整系 1材型カチオンフィラー（コテ・ローラー兼用）

- セメント系粉体とカチオン系粉末樹脂を予め適量混合した1材型で、各種の下地に対して安定した接着力を発揮します。
- 現場で使いやすい1材型。ノロビキから2.0mm程度まで対応可能です。



入 目 | 20kg

標準使用工具	ローラー、刷毛、左官ゴテ
塗 厚	ノロビキ 0.5～2.0mm
調合方法	コテ塗り：主材20kg＋水5～6ℓ 刷毛・ローラー塗り：主材20kg＋水8～9ℓ 調合した材料は1時間以内で使用してください。

MGタイト

伸縮目地処理材 ガラス発泡骨材入りポリマーセメントモルタル

MGタイトは、樹脂モルタルにガラス発泡骨材を配合した通気緩衝工法専用の目地処理材です。押えコンクリート層の熱膨張などにより目地幅が狭められると、目地材に混入された骨材が碎け、目地方向に集中した応力を吸収します。このため、新規防水層施工後に起こる目地部での盛り上がりを防止します。
※20mm以上の目地深さが必要です。 ※密着工法には使用できません。



入 目 | A剤4kg／ポリ容器
B材10kg／袋
C材20kg／袋

MGタイト配合表

材料	配合比
A 剤	2
B 材	5
C 材	10
水	2

1セットあたりの施工目安

充填サイズ	長さ
20mm×20mm	約76m
20mm×30mm	約50m
30mm×30mm	約33m

MGテープ

伸縮目地処理材 伸縮目地処理用テープ

- 既存伸縮目地部のキャップを外し、プライマー塗布後「MGテープ」を張るだけで目地処理が完了します。
- テープに組み込まれた金属板によって、伸縮目地を平滑にします。 ・テープの裁断は金属板の組み込まれていない任意の部分で、容易に裁断できます。
- 裏面の自着層が伸縮目地の動きを緩衝し平滑性を維持します。 ・通気緩衝シートとの接着が良好です。



入 目 | 4巻／ケース
寸 法 | 幅100mm×長さ15m／巻

規格

材 質	粘着付きPETフィルム (PET、アクリル接着剤100mm) 自着層 (ブチルゴム系粘着材90mm) 金属片 (ガルバリウム鋼板70×10×0.4mm) 離型紙 (110mm)
厚 み	約1mm
重 量	約3kg／巻
色	グレー

■ 下地処理適応表

【記号の見方】 ○適用可 ×適用不可 △条件により適用

適用下地	下地処理材	ダブルテックス NEO	Dワン・カチオン
	アスファルトコンクリート	△	△
	モルタル	○	○
	コンクリート	○	○
	レンガ	○	○
	ALC	○	○
	プレキャストコンクリート (PCa)	○	○
	スレート	○	○
	大理石	×	×
	花崗岩	○	○
	鉄	○	×
	アルミニウム	×	×
	ステンレス	△	×
	銅	×	×
	鉛	×	×
	エポキシ	○	×
	ウレタン	○	×
	FRP	△	×
	アクリルゴム	○	×
	塩化ビニルシート	×	×
	ブチルゴム	×	×
	加硫ゴム	×	×
	フッ素	×	×
	陶器質タイル	○	○
	磁器質タイル	○	×
	サイディングボード	○	○
	珪酸カルシウム板	○	×
	アスファルト	○	×
	ガラス	○	×

※下地素材の状況により接着強度が変わる場合があります。

製品一覧

製品分類	製品名	入目・荷姿	製品種別	備 考
スプレー塗膜材	コスミック・RIM S100	主 剤 200kgドラム 18kg／缶 硬化剤 182kgドラム 18kg／缶	2成分形 超速硬化ウレタン防水材	JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用認証品
	コスミック・RIM S200 (N)	主 剤 200kgドラム 18kg／缶 硬化剤 175kgドラム 16kg／缶	2成分形 超速硬化ウレタン防水材	JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系高伸長形、 高強度形 共用認証品
	コスミック・RIM S150	主 剤 210kgドラム 18kg／缶 硬化剤 182kgドラム 18kg／缶	2成分形 超速硬化ウレタン防水材	JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用認証品
	コスミック・RIM S500	主 剤 200kgドラム 18kg／缶 硬化剤 175kgドラム 16kg／缶	2成分形 超速硬化ウレタン防水材	JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用同等品
トナー	S トナー S	8kg／缶	顔料ペースト	着色用 (S150用)
	スプレートナー	15kg／缶、1.4kg／缶	顔料ペースト	着色用
ポリウレア樹脂	コスミック・RIM A-50R	主 剤 200kgドラム 18kg／缶 硬化剤 175kgドラム 16kg／缶	2成分形 超速硬化ポリウレア防水材	JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用同等品
トナー	コスミック・RIM A-50R トナー	15kg／缶、1.4kg／缶	顔料ペースト	着色用 (A-50R専用)
防水材	エバーコート Zero-1H	18kg／缶	特定化学物質無配合 1 成分形ウレタン塗膜防水材	平場用 JIS A 6021 硬化物比重 1.3
	エバーコート Zero-1H 立上り用	18kg／缶・8kg／缶	特定化学物質無配合 1 成分形ウレタン塗膜防水材	立上り用 JIS A 6021 硬化物比重 1.3
	エバーコート Zero-1H 中粘度	18kg／缶	特定化学物質無配合 1 成分形ウレタン塗膜防水材	中粘度 JIS A 6021 硬化物比重 1.3
希釈剤	US 環境キシャク剤	12kg／缶	希釈剤 (弱溶剤系 ^{※2)}	添加上限：5%
硬化促進剤	Zero-1 専用促進剤 C タイプ	3.3kgポリビン	硬化促進剤 (通年)	PRO・ゼロワン専用硬化促進剤
	Zero-1 専用促進剤 速硬化タイプ	3.3kgポリビン	硬化促進剤 (速硬化タイプ)	PRO・ゼロワン専用硬化促進剤
プライマー	コスミック・プライマー S ^{※1}	16kg／缶	1 成分形ウレタン樹脂 (溶剤系)	一般用プライマー
	コスミック・プライマー EP ^{※1}	12kg／セット (主剤 6kg・硬化剤 6kg)	2 成分形エポキシ樹脂 (溶剤系)	コンクリート・モルタル及び 金属下地用プライマー
	コスミック・プライマー EP 駐車場用 ^{※1}	12kg／セット (主剤 6kg・硬化剤 6kg)	2 成分形エポキシ樹脂 (溶剤系)	駐車場用プライマー
	コスミックプライマー EP 硬化促進剤 ^{※1}	1kg／缶	硬化促進剤	コスミック・プライマー EP 駐車場用専用硬化促進剤
	コスミック・プライマー U	16kg／缶	1 成分形ウレタン樹脂 (弱溶剤系 ^{※2)}	コンクリート・ モルタル下地用プライマー
	コスミック・エコプライマー	16kg／缶 (主剤 8kg・硬化剤 8kg)	2 成分形エポキシ樹脂 (水系)	コンクリート・モルタル及び ゴムシート下地用プライマー
	コスミック・プライマー 200 ^{※1}	12kg／セット (主剤 6kg・硬化剤 6kg)	2 成分形ウレタン樹脂 (溶剤系)	ウレタン下地用プライマー
	コスミック・プライマー 300	15kg／缶	1 成分形ウレタン樹脂 (溶剤系)	ウレタン下地用プライマー
	コスミック・プライマー E	14kg／缶	1 成分形ウレタン樹脂 (弱溶剤系 ^{※2)}	ウレタン及び 塩化ビニル樹脂下地用プライマー
	FU プライマー ^{※1}	8kg／セット (主剤 4kg・硬化剤 4kg)	2 成分形ウレタン ポリエステル樹脂 (溶剤系)	ポリエステル樹脂トップコート 下地用プライマー
	コスミック・プライマー DE	10kg／セット (主剤 2kg/硬化剤 2kg/粉材 6kg)	水系エポキシポリマー セメントプライマー	一般用プライマー
	W-1 (旧名称：コスミック・プライマー 500 ^{※1})	20kg／セット (主剤 10kg・硬化剤 10kg)	2 成分形エポキシ樹脂 (溶剤系)	HG コート用プライマー
	ダイナベース ^{※1}	20kg／缶	アスファルト活性剤 (溶剤系)	砂付アスファルト下地活性剤

製品分類	製品名	入目・荷姿	製品種別	備 考
トップコート	SQ トップ・ゼロ	15kg／セット (主剤 6kg・硬化剤 9kg)	2 成分形 アクリルウレタン樹脂 速乾タイプ (弱溶剤系 ^{※2)}	《一般色 (艶有りタイプ、艶消しタイプ)》 No.12 グレー、No.70 ライトグレー、 No.44 SP グリーン 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	AS トップ・ゼロ (旧名称：コスミック・ゼロトップ AS)	15kg／セット (主剤 6kg・硬化剤 9kg)	2 成分形 アクリルシリコン樹脂 (弱溶剤系 ^{※2)}	《一般色 (艶有りタイプ、艶消しタイプ)》 No.12 グレー、No.70 ライトグレー、 No.44 SP グリーン、 No.15 グリーン、 No.17 タンブラウン、 No.96 ブラウン、 No.97 ライトブラウン 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	フッ素スーパートップ・ゼロ (旧名称：コスミック・ フッ素ゼロトップ)	10kg／セット (主剤 4kg・硬化剤 6kg)	2 成分形フッ素樹脂 (弱溶剤系 ^{※2)}	《一般色 (艶有りタイプ)》 No.12 グレー、No.70 ライトグレー、 No.44 SP グリーン、 No.15 グリーン、 No.17 タンブラウン、 No.96 ブラウン、 No.97 ライトブラウン 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	コスミック・トップ S	16kg／セット (主剤 4kg・硬化剤 12kg)	2 液アクリル変性ウレタン系 トップコート (溶剤系)	光沢仕上げ グレー、ライトグレー、ダークグレー、 グリーン、ライトグリーン、 イエローオーカー、ブラウン
	コスミック・トップUV ^{※1}	14kg／セット (主剤 6kg・硬化剤 8kg)	2 成分形ハルスタイプ アクリルウレタン樹脂 (溶剤系)	光沢仕上げ高反射タイプ ライトグレー、ミントグリーン、 タンブラウン、ブラウン、 ライトブラウン
	オートップ・ワン (旧名称：コスミック・エコトップ ONE)	15kg／缶	1 成分形 アクリルウレタン樹脂 (水系)	《一般色 (艶有りタイプ)》 グレー、グリーン 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	HG コート (旧名称：コスミック・ MK コート) ^{※1}	20kg／缶	1 成分形無機質調 アクリルシリコン樹脂 (水系)	《一般色》 シルバーグレー、グリーン、レッド 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	粗面仕上材	500g／袋	中空ガラスビーズ	粗面仕上げ用骨材
	エストップ# 20	1kg／袋	粗面仕上げ用 ウレタンチップ	粗面仕上げ用チップ
	エストップ# 40	1kg／袋	粗面仕上げ用 ウレタンチップ	粗面仕上げ用チップ
通気緩衝シート	CA マット G	幅 1.04m×長さ 15.7m／巻	改質アスファルトシート	通気緩衝工法用自着層付シート
	CA マット SB	幅 1.0m×長さ 15m／巻	粘着ブチルゴムシート	通気緩衝工法用自着層付シート
	CA マット SB 機械固定用	幅 1.0m×長さ 15m／巻	粘着ブチルゴムシート	通気緩衝工法用自着層付シート
	CM 通気クロス	幅 1.0m×長さ 50m／巻	アルミ箔ラミネートポリエス テル	通気緩衝工法用穴あきクロス

製品一覧

製品分類	製品名	入目・荷姿	製品種別	備 考
テープ	CA ジョイントテープ	幅 50mm×長さ 25m / 巻	ブチルゴム	CA マット G ジョイント用テープ
	ジョイントテープ TM	幅 100mm×長さ 50m / 巻	PET フィルム付ガラスメッシュ	CA マット G および SB マット用
	CA 端末テープ	幅 100mm×長さ 25m / 巻	ブチルゴム	シート端末用、金属部絶縁用テープ
	DF メッシュテープ	幅 100mm×長さ 50m / 巻	ガラスメッシュ	シート端末用、各種補強用テープ
	FJ テープ	幅 50mm・70mm・100mm・150mm・200mm×20m / 巻	ブチルゴム	ランスロックキャント N、T ルーフプレート A 型用絶縁テープ、金属屋根接合部絶縁用テープ
	キレールテープ	幅 55mm×長さ 30m / 巻	ストーンペーパー	水切りテープ
補強材／金物／その他	T ルーフアンカー	300 本／箱	ステンレス製	機械的固定工法用アンカーピン (40mm / 70mm)
	ハードエッジドライブ HDF	65 本／バック (45mm) 45 本／バック (60mm) 40 本／バック (75mm) 25 本／バック (90mm) 23 本／バック (100mm) 100 本／箱 (120mm) 100 本／箱 (150mm) 100 本／箱 (180mm)	スチール製	機械的固定工法用ネジ
	T ルーフワッシャー	300 枚／袋	アルミニウム製	ハードエッジ HDF 用ワッシャー
	T ルーフスリーブ	300 個	アルミニウム製	固定用金物 (5mm・20mm・25mm・30mm・35mm・40mm)
	ランスロックキャント N 40 / 100	幅 30×40×30mm、 幅 30×100×30mm 長さ 2m / 本	アルミニウム製	機械的固定工法用 シート端末補強金物 (30-40-30mm / 30-100-30mm)
	T ルーフプレート A 型	幅 30mm×長さ 2m / 本	アルミニウム製	機械的固定工法用 シート端末補強金物
	アルミサスアンカー	100 本／箱	アルミニウム製	ランスロックキャント N、 T ルーフプレート A 型用 固定アンカーピン (26mm・40mm・70mm)
	CA パッチテープ	50 Φ×370 枚／巻	ブチル系粘着テープ	T ルーフアンカー用カバーシール
	PK 骨材	25kg／袋	コーティング骨材	駐車場用粗面仕上げ骨材 (スロープ用)
	PK 骨材 (G 粒)	25kg／袋	コーティング骨材	駐車場用粗面仕上げ骨材
シーリング材	シーカフレックス 11FC Quick	320ml×20 本 (10 本入り箱×2)	1 成分形ポリウレタン系 速硬化タイプ	シーリング材
脱気装置	ステンレスベント N	2 個／箱	ステンレス製	床面設置用脱着式脱気装置
	ウォールベント	5 個／箱	ステンレス製 (本体) アルミ製 (プレート)	立上り設置用脱気装置
改修ドレン	LF 改修ドレン U タテ型・ヨコ型	2 個／箱	アルミエキスパンドメタル (ゴムコーティング)	非鉛製改修工事用ドレン
	LF ドレンキャップ タテ型・ヨコ型	2 個／箱	アルミダイキャスト製	LF 改修ドレン用ストレーナキャップ
下地処理材／ 目地処理材	ダブルテックス NEO	20kg／缶	エポキシ系	防水下地調整用ポリマーセメント
	D ワン・カチオン	20kg／袋	1 材型カチオン系	防水下地調整用カチオンフィラー
	MG タイト	34kg／セット	ガラス発泡骨材入り	伸縮目地処理用ポリマーセメント モルタル
	MG テープ	100mm×15m / 巻	ブチルゴム系粘着層付 PET フィルム (ガルバリウム鋼板入り)	伸縮目地処理用テープ

※ 1 エチルベンゼン、メチルイソブチルケトン、スチレン、ジクロロメタンのいずれかが含まれているため屋内で使用する場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。

(HG コートには含まれていませんが、HG コート用プライマー「W-1」にエチルベンゼンが含まれています。)

※ 2 弱溶剤系とは、トルエンやキシレンの他、有機溶剤中毒予防規則の対象物質を配合していないことを言います。